長野県埋蔵文化財センター年報 12

1995

財団法人

長野県埋蔵文化財センター

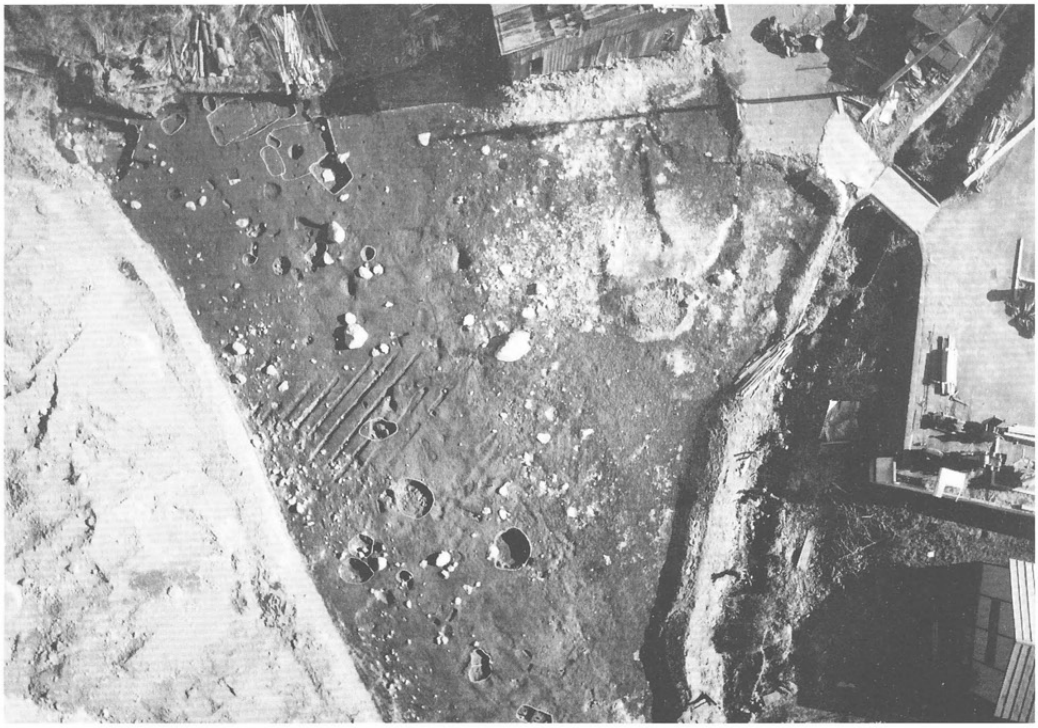
長野県埋蔵文化財センター年報12

1995

財団法人

長野県埋蔵文化財センター

大久保南遺跡黒曜石集中地点（上）、
星光山荘遺跡出土神子柴型石斧（下左）と隆線文土器（下右）



東部町桜畑遺跡全景

長野市石川条里遺跡，古墳祭祀土壙SK2027出土土器

序

発足14年目を迎えた㈶長野県埋蔵文化財センターは，上信越自動車道や北陸新幹線等の事業の進展に伴い，本年は上田・長野・中野の三事務所体制で事業を推進して参りました。

４月より事務局と長野調査事務所は，昨秋開館した県立歴史館の一角に居を移しました。その一方，中野調査所は新潟県境までの発掘調査をほぼ終了し，３月末に閉所することになりました。事業の進展に伴うこととはいえ，変化の大きさに感概を覚える１年でした。長い間のご支援・ご協力を厚く感謝する次第です。

本年度の事業としては，新潟県境・信濃町の上信越自動車道と国道18号線野尻バイパスに関連して、一昨年来継続して実施して来た旧石器時代を中心とする遺跡群の最終的な発掘調査を行いました。昨年度ナウマン象の脂肪酸が検出された日向林Ｂ遺跡や貫の木遺跡などの環状ブロック群の残り部分が調査でき，世界的にもまれなキルサイトの構造を解明するうえで，極めて重要な知見が得られました。

発掘調査の終了に伴いウエイトが置かれるようになった整理作業では，上信越自動車道関連の，長野市大星山古墳群・北平１号墳及び更埴市屋代遺跡群・木簡編の報告書を刊行致しました。発掘調査時から大変な注目を集めた屋代遺跡の木簡は解読が完了し，考古学的な所見を合わせた報告書は，日本の古代史研究に大きく寄与するものと自負しております。また古墳時代の特異な祭祀域が発見された石川条里遺跡や，池田端古窯跡をはじめとする高丘丘陵の古窯跡群は，遺物の整理がほぼ終了し，報告書の刊行に向けて遺跡の評価の検討に入りました。年次計画に従って順次報告書が刊行できるよう，努めたいと存じます。

普及・啓発活動としては，発掘・整理の速報展を開催したほか，懸案だった研究論文集を刊行致しました。職員の日頃の研鑽の成果を読み取っていただければ幸いです。

本書は平成７年度に当センターが実施した事業の概要を掲載したものです。ご参考になれば望外の喜びです。

日頃より当センターの諸事業にご協力・ご指導をいただいている関係各位に御礼申し上げるとともに，より一層のご理解・ご支援をお願いする次第です。

平成８年３月

財団法人長野県埋蔵文化財センター

理事長　佐　藤　善　處

目　次

口絵　カラー
信濃町大久保南遺跡黒曜石集中地点（上）
星光山荘遺跡出土，神子柴型石斧（下左）と隆線文土器（下右）
写真
上・東部町桜畑遺跡全景
下・長野市石川条里遺跡，古墳祭祀土壙SK2027出土土器

序
目次

Ⅰ　発掘調査及び整理作業の概要
1　概要……1
2　各調査事務所の事業
(1)　上田調査事務所
概要……3
1　郷土遺跡……5
2　真行寺遺跡……5
3　桜畑遺跡……6
4　大日ノ木遺跡……6
5　宮平遺跡……7
6　山崎古墳群……7
7　更埴条里遺跡……7
8　前田遺跡群……8
9　国分寺周辺遺跡群……8
10　屋代遺跡群……9
(2)　長野調査事務所
概要……11
1　篠ノ井遺跡群……14
2　石川条里遺跡……15
3　浅川扇状地遺跡群……16
4　小川広場遺跡……17
5　山の神遺跡……17
6　石川条里遺跡……17
(3)　中野調査事務所
概要……20
1　牛出遺跡……22
2　対面所遺跡……23
3　七つ栗遺跡……24
4　日向林Ｂ遺跡……25
5　東裏遺跡……26
6　大久保南遺跡……27
7　上ノ原遺跡……29
8　貫ノ木遺跡……30
9　西岡Ａ遺跡……33
10　星光山荘遺跡……34
整理作業……35

Ⅱ　普及・公開活動の概要
1　現地説明会・展示会……36
2　指導・研究会・学習会……37
3　刊行物……37

Ⅲ　機構・事業の概要
1　機構……38
2　事業……39
平成７年度の役員及び職員

Ⅰ　発掘調査及び整理作業の概要

1　概要

平成７年度の発掘調査は，前年度に引き続き上信越自動車道関連・北陸新幹線関連・国道バイパス関連にくわえて，国営公園関連の遺跡を対象に実施した。整理作業は長野自動車道関連・上信越自動車道関連・北陸新幹線関連遺跡の一部を対象とした。詳細は各事務所毎に報告するとして，概要を以下の一覧表に示す。

(1)発掘調査

上信越自動車道関連

所在地	遺跡名	調査対象面積 ㎡	契約面積 ㎡	調査面	調査延面積 ㎡	調査期間	調査員数	調査状況	主な検出遺構	主な出土遺物	次年度以降調査面積 ㎡	調査事務所
小諸市	郷土	8,000	200	1	200	4·10～5·19 9·19～10·9	2	終了	縄文時代中期竪穴住居跡２，土坑33	縄文土器・石器，栗炭化物，焼骨	0	上田
東部町	真行寺	13,000	2,300	1	2,300	8·1～9·29	2	終了	縄文時代前期竪穴住居跡２，平安時代竪穴住居跡２，中世土坑墓	縄文前期土器・石器，古代土器，中世陶磁器、鉄製農具	0	〃
〃	桜畑	5,000	1,200	1	1,200	11·1～12·5	2	終了	縄文時代前期竪穴住居跡１，平安時代竪穴住居跡１，中世竪穴状遺構３	縄文土器・石器，古代土器，中世陶磁器，銭貨，人骨	0	〃
上田市	大日ノ木	9,500	900	1	900	4·4～5·26	2	終了	弥生時代後期～古墳時代前期竪穴住居跡４，古墳時代後期竪穴住居跡１，古代竪穴住居跡５	縄文土器，弥生土器，古代土器，石器類	0	〃
〃	宮平	13,000	400	1	400	4·10～5·19	2	終了	平安時代竪穴住居跡１，古代以降掘立柱建物跡５	古代土器	0	〃
坂城町	山崎古墳群	2,000	1,500	1	1,500	9·7～9·8 11·7～11·10	1	終了			0	〃
更埴市	更埴条里	70,000	700	1	700	5·10～5·12	1	終了	水田畦畔	古代土器	0	〃
中野市	牛出	5,500	2,000	3	6,000	5·15～8·23	2	終了	古墳時代前期竪穴住居跡６，平安時代後期竪穴住居12，中世溝２	縄文土器，弥生土器，古墳時代土器，古代土器・陶器，鋤頭	0	中野
豊田村	対面所	1,500	1,500	1	1,500	4·5～5·12	2	終了	中世火葬骨埋葬ピット102・火葬施設４	五輪塔，銭貨，灰釉陶器，火葬骨	0	〃
信濃町	七つ栗	4,900	2,500	1	2,500	4·15～8·4 10·2～10·31	4	終了	旧石器時代ブロック２・礫群２，縄文時代陥し穴４，平安時代竪穴住居跡５	後期旧石器時代石器，縄文草創期・早期土器，古代土器・鉄滓	0	〃
〃	日向林B	5,000	500	2	1,000	4·5～5·25	4	終了	旧石器時代ブロック11・礫群１	後期旧石器時代石器（石斧，台形様石器）	0	〃
〃	東裏	44,000	4,000	1	4,000	7·18～10·13	4	終了	旧石器時代ブロック７	後期旧石器時代石器（石斧，国府系ナイフ）	0	〃
〃	大久保南	3,500	3,500	2	4,500	4·5～8·12	3	終了	旧石器時代ブロック14以上・礫群３，縄文時代土坑３，縄文土器	後期旧石器時代石器（石斧，ナイフ，砥石）	0	〃
〃	上ノ原	7,500	4,000	2	7,000	8·17～11·28	7	終了	旧石器時代ブロック17以上・礫群１，縄文時代陥し穴１	後期旧石器時代石器（石斧，ナイフ，尖頭器）	0	〃
〃	貫ノ木	41,000	6,000	2	11,500	4·3～11·30	6	終了	旧石器時代ブロック70以上，縄文時代土器集中10・集石２，土坑37，平安時代竪穴住居跡１，近世墓１	後期旧石器時代石器（石斧，ナイフ，尖頭器），縄文土器・石器，古代土器，人骨，釘	0	〃
〃	西岡A	16,500	13,000	1	13,000	4·5～10·20	3	終了	旧石器時代ブロック10・礫群17，縄文時代陥し穴17	後期旧石器時代石器（ナイフ，石槍，彫器），縄文土器	0	〃
〃	星光山荘	4,000	4,000	2	5,400	5·16～9·8	3	終了	縄文時代草創期・前期礫群15，陥し穴20，焼土跡１，平安時代竪穴住居跡１	縄文時代草創期・前期土器・神子柴型石斧，石槍，砥石，古代土器	0	〃

北陸新幹線関連

所在地	遺跡名	調査対象面積 ㎡	契約面積 ㎡	調査面	調査延面積 ㎡	調査期間	調査員数	調査状況	主な検出遺構	主な出土遺物	次年度以降調査面積 ㎡	調査事務所
佐久市	前田	15,600	3,000	1	3,000	5·8-5·16 6-5	1	終了	中世竪穴状遺構２	内耳土器，土師器	0	上田
上田市	国分寺周辺	(2,470)	(700)	1	(700)	8·1～9·29	3	終了	弥生時代後期～平安時代竪穴住居跡36・掘立柱建物跡１，土坑88，溝跡２	縄文土器，弥生後期土器，古墳時代～古代土器・石器，刀子	0	〃
長野市	篠ノ井	7,300	500	2	1,000	9·4～11·17	4	終了	弥生時代後期竪穴住居跡14・竪穴状遺構３，土坑45，溝３，古墳～平安時代竪穴住居跡28・掘立柱建物３・塊防２・土坑	弥生後期土器，古墳～平安時代土器，勾玉，管玉，ガラス小玉，卜骨，鉄滓	0	長野
〃	石川条里	10,300	1,000	1	1,000	4·11～4·21	3	終了	平安時代条里水田，近世溝		0	〃
〃	浅川扇状地	(4,377) 71,580	(1,260) 2,500	2	(1,540) 3,750	4·3～7·27	6	終了	古墳時代前期竪穴住居跡９・掘立柱建物３・土坑57，中世掘立柱建物17・溝９・井戸12・畦畔	古墳時代前期土器・ミニチュア土器，中世陶磁器・農具・五輪塔	0	〃

国道18号野尻バイパス関連

所在地	遺跡名	調査対象面積 m²	契約面積 m²	調査面	調査延面積 m²	調査期間	調査員数	調査状況	主な検出遺構	主な出土遺物	次年度以降調査面積 m²	調査事務所
信濃町	貰ノ木	7,600	3,400	2	5,100	4·3～11·30	6	8年継続	上信越自動車道に含める		200	中野

国営アルプスあづみの公園関連（試掘調査）

所在地	遺跡名	調査対象面積 m²	契約面積 m²	調査面	調査延面積 m²	調査期間	調査員数	調査状況	主な検出遺構	主な出土遺物	次年度以降調査面積 m²	調査事務所
穂高町	小川広場	33,287	3,320	1	3,320	10·3～10·18	2	8年継続	古墳2基		未定	長野
大町市	山の神	35,950	1,983	1	1,983	10·19～12·5	2	8年継続	縄文時代早期遺物包含層	縄文早期土器・石器	未定	〃

(2) 整理作業

	所在地	遺跡名	作業内容	担当事務所
長野自動車道関連	長野市	石川条里・篠ノ井	遺物実測・分類，図版作成	長野
上信越自動車道関連	佐久市・小諸市・東部町・上田市・坂城町・更埴市	栗毛坂・芝宮・三田原・真行寺・陣馬塚古墳・清水製鉄・更埴条里ほか49遺跡	遺物注記・実測，図版作成	上田
	更埴市	屋代（木簡）	報告書刊行	〃
	長野市	松原・榎田	遺物実測・分類，図版作成	長野
	〃	北平・大星山古墳群	報告書刊行	〃
	小布施町・中野市・豊田村・信濃町	飯田古屋敷・清水山古窯・牛出・日向林B・上ノ原ほか17遺跡	遺物注記・実測，図版作成	中野
北陸新幹線関連	軽井沢町・御代田町・佐久市・浅科村・上田市	県・池尻・金井城・砂原・中平田中島・国分寺周辺ほか16遺跡	遺物注記・実測，図版作成	上田
	更埴市・長野市	更埴条里・屋代・篠ノ井・石川条里・築地・於下・今里・川中島・浅川扇状地・三才	遺物注記・実測，図版作成	長野

2　各調査事務所の事業

(1)　上田調査事務所

発掘調査の概要

調査遺跡数　9遺跡　9,500㎡（上信越自動車道関係7遺跡，北陸新幹線関係2遺跡）

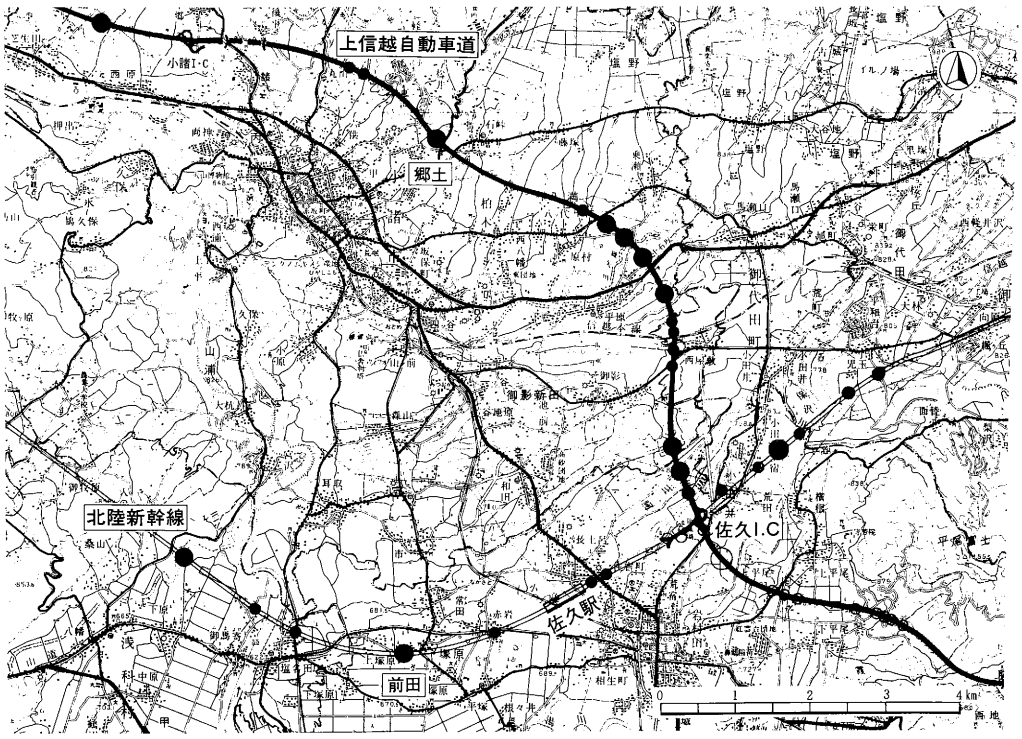
今年度の調査は昨年度まで継続的に実施してきた上信越自動車道関係・北陸新幹線関係遺跡の残件調査であり，これにより両事業に伴う発掘調査は極一部を除き終了した。

上信越自動車道関係では，小諸市郷土遺跡で浅間山麓有数の縄文中期後葉集落の内容がより明らかにされた。東部町内では真行寺・桜畑遺跡で縄文時代から中世にかけての複合遺跡が調査された。上田市の大日ノ木・宮平遺跡は今年度の調査で集落のほぼ全容が明らかにされた。更埴市更埴条里遺跡はトレンチ状の狭い調査ではあったが，今までの調査で判明していた平安時代の条里水田の広がりがとらえられた。

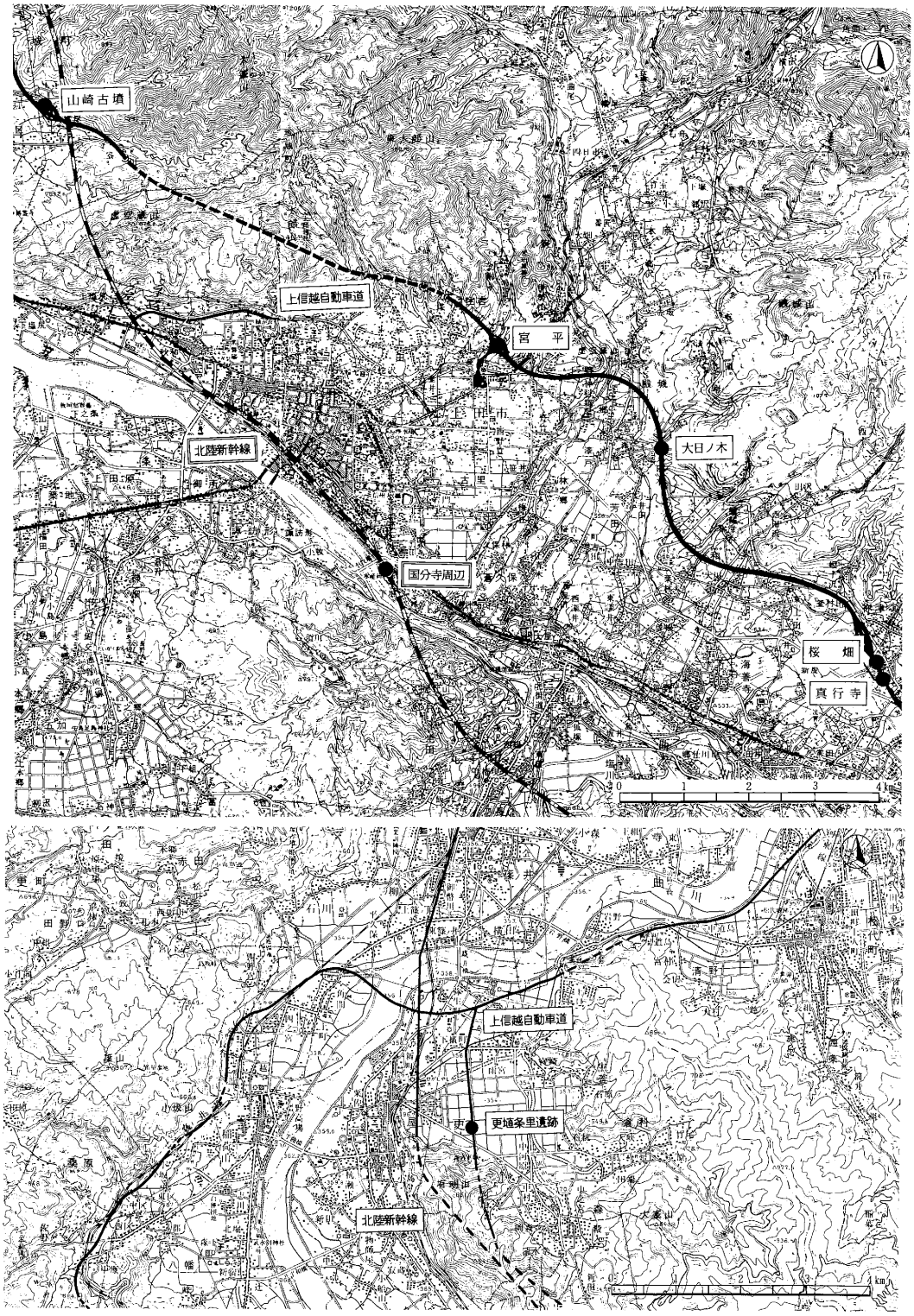
北陸新幹線関係では上田市国分寺周辺遺跡が調査され，弥生時代から平安時代におよぶ住居跡などが多数発掘され，信濃国分寺周辺域での資料が蓄積された。

整理作業

上信越自動車道・北陸新幹線関係の報告書刊行に向けた整理作業は，今年度から旧佐久調査事務所分及び更埴市内の高速道関係を含めて，上田調査事務所で本格的に開始された。今年度は水洗・注記から接合など基礎的な作業から着手し，一部は遺物の実測なども進めた。屋代遺跡群の木簡については釈文の確定，実測，写真撮影などを行い，報告書を刊行した。



地図1　上田調査事務所関係調査遺跡(1)（1:100,000）



地図２　上田調査事務所関係調査遺跡(2)（１：100,000）

1　郷土（ごうど）遺跡（上信越自動車道関連）

所　在　地：小諸市大字甲字中郷土4146ほか　　調査担当者：桜井秀雄　臼田武正
調 査 期 間：平成７年９月19日～10月９日　　調 査 面 積：200m²

郷土遺跡の調査も４年目を迎えた。残件部分の解決が秋にずれ込んだため調査も９月になってようやく着手することができた。今年度の調査はその残件部分（住宅）の200m²であったが，住宅造成時の工事等による遺跡の破壊個所が少なからず認められた。

検出された遺構は，竪穴住居跡２軒（うち昨年度からの調査継続住居跡が１軒）と土坑33基で，いずれも縄文時代中期後葉に比定されよう。住居跡は２軒とも敷石住居跡である。131号住居跡は，その南側約半分が用地外に存在するため完掘はできなかったが，おそらく柄鏡形敷石住居跡になるものと思われる。土器，石器の他には土錘１点が出土している。

土坑のうち，２基は貯蔵穴の可能性がある。1072号土坑からは多量の栗とともに，昨年度も数多く発見された動物とおぼしき焼骨も出土している。この種の土坑の性格は今後の検討課題である。

４年間に及ぶ郷土遺跡の発掘調査も佐久・小諸間供用開始１ケ月前ですべてを終了した。遺物量はテンバコで約900箱を数える。検出遺構は住居跡約120軒，土坑約1000基などの多数に上る。こうした遺構・遺物の大半は縄文時代中期後半に位置づけられるものであり，浅間山麓における当該期の中核的遺跡になることは間違いないであろう。

2　真行寺（しんぎょうじ）遺跡（上信越自動車道関連）

所　在　地：小県郡東部町祢津字元会下1095ほか　　調査担当者：井口　章　寺沢政俊
調 査 期 間：平成７年４月10日～５月19日，８月１日～９月29日
調 査 面 積：2,300m²
遺跡の立地：所沢川と求女沢川によって形成された複合扇状地
遺跡の特徴：尾根上に広がる縄文・古墳・古代の集落，中世の火葬墓・土坑墓群

主な検出遺構

遺構／時期	住居跡	土坑	溝
縄　文	2	31	1
平　安	2		

主な出土遺物

土　　器：縄文前期土器，土師器，須恵器，中・近世陶磁器
石　　器：石鏃，打製石斧，擦石，敲石
金 属 製 品：農具，鉄滓他

遺跡は昨年度に主要部の調査が行われ，縄文時代から古代にわたる集落跡と中世の火葬墓・土壙墓群が検出されている。今年度は，その北西隣の緩やかな尾根状部を調査し，遺構は希薄である。縄文時代前期初頭の住居跡は，略円形でほぼ中央部に埋設土器をもつ。平安時代の住居からは鉄製農具が出土している。土坑は不整形が多いが，昨年度検出と同様な中世の墓穴と考えられるものも含む。溝は北から南に走り，鉄滓，骨片なども出土している。

3　桜畑（さくらばた）遺跡（上信越自動車道関連）

所　在　地：小県郡東部町祢津字五輪原1201ほか　　調査担当者：広瀬昭弘　井口　章
調 査 期 間：平成７年11月１日～12月５日　　調 査 面 積：1,200㎡
遺跡の立地：大室山南麓の求女沢川によって形成された複合扇状地
遺跡の特徴：縄文時代（前期・中期），古墳時代，平安時代，中世の集落
主な検出遺構

時期＼遺構	住居跡	土坑
縄　文	1	18
平　安	1	
中　世	3	

主な出土遺物
土　　器：縄文土器，土師器・須恵器（平安），中世陶磁器
石　　器：石鏃，打製石斧，砥石
そ　の　他：銅銭，鉄滓，人骨（一体）

遺跡は２つの河川にはさまれた舌状の扇端部にある。平成５年度調査では，縄文時代から中世にわたる遺構群が調査区東半の山側で集中して検出された。今年度の調査でも遺構は前回と同様に山側にまとまり，調査区が集落のはずれに位置していると考えられる。

主な遺構としては，縄文時代前期の隅丸方形の住居跡と東壁カマドの平安時代の住居跡が各１軒，中世と思われる竪穴状遺構が３基，さらに人骨の埋葬された土坑１基が検出された。

4　大日ノ木（おひのき）遺跡（上信越自動車道関連）

所　在　地：上田市芳田字山田854－１ほか　　調査担当者：柳沢　亮　寺沢政俊
調 査 期 間：平成７年４月４日～５月26日　　調 査 面 積：900㎡
遺跡の立地：千曲川支流，行沢川と瀬沢川に挟まれた扇状地の緩斜面　標高639～646m
時代と時期：弥生時代後期～古墳時代初頭，古墳時代後期，奈良・平安時代
遺跡の特徴：弥生時代後期～平安時代の居住域
主な検出遺構（　　）は通算数

時期＼遺構	住居跡	掘立柱建物跡	土坑	焼土跡	埋没河川
縄文晩期	(1)		6 (72)	1 (6)	(2)
弥生後期から古墳初頭	4 (16)	(3)			
古墳後期	1 (3)				
奈良・平安	5 (15)				

主な出土遺物
土　　器：縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器，灰釉陶器，手捏土器
石　　器：石鏃，石匙，スクレイパー，打製石斧，擦石
そ　の　他：鍛造釘

平成５年から始まった本遺跡の調査は今回の第４次調査で全て終了した。今回の調査区では前次調査から継続した住居跡５軒と新たに５軒（弥生後期～古墳初頭１，奈良・平安４）の住居跡を検出した。

４回の調査を通じて，弥生後期～古墳初頭の焼失家屋と埋没河川から多量の土器が良好な状態で出土しており，当該期の土器編年を考える上で貴重な資料となるであろう。

5　宮平遺跡（上信越自動車道関連）

所　在　地：上田市住吉字宮平991ほか　　調査担当者：若林　卓　豊田義幸

調 査 期 間：平成７年４月10日～５月19日　　調 査 面 積：400㎡

遺跡の立地：矢出沢川右岸の河岸段丘面

遺跡の特徴：古墳時代後期から平安時代の集落（７～９世紀）

主な検出遺構（　　）は通算数

遺構 時期	住居跡	掘立柱建物跡	土　坑（墓壙含む）	溝　跡
古 墳 前 期	（1）	5 (73)	64 (1079)	1 （6）
古 墳 後 期	1 (86)			
奈良・平安				
中 世 以 降	1（1）			

主な出土遺物（通算）

土 器 な ど：縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器，灰釉陶器，瓦，円面硯，紡錘車

石 器 な ど：石鏃，紡錘車，砥石，玉，敲石，凹石

金 属 製 品：帯金具，耳環，鉄斧，刀子，銭貨，鉄滓

そ　の　他：動物骨，人骨，種子，ベンガラ

上信越自動車道建設に関わる宮平遺跡の発掘調査は，平成５年度に工事用道路部分2700㎡，６年度に遺跡中心部13,000㎡，最終調査となる今年度は僅かな残件部分400㎡を調査した。これにより宮平遺跡の主要部分は調査されたこととなる。

今回新たに検出した遺構は，９世紀の竪穴住居１軒，古代以降と思われる掘立柱建物５棟，土坑（小穴を含む）64基である。前年度までの知見を大きく変えるものではない。

6　山崎古墳（上信越自動車道関連）

所　在　地：埴科郡坂城町中之条字山崎1569　　調査担当者：広瀬昭弘

調 査 期 間：平成７年５月19日，９月７日～８日，11月７日～10日

調 査 面 積：1,500㎡

平成４・５年度に調査を行った残件部分の調査である。坂城町誌に記載された「むじな塚古墳」が所在したと想定される地点であったが，古墳に関係する遺構などは検出されず，記載の通り湮滅していたと判断される。

7　更埴条里遺跡（上信越自動車道関連）

所　在　地：更埴市大字屋代字返町518－２ほか　　調査担当者：河西克造

調 査 期 間：平成７年５月10日～５月12日

調 査 面 積：700㎡（実質）

高速道路本線（Ｃ・Ｄ・Ｅ地区）両側に増設するバス・ストップ部分を調査した。基本的にトレンチ調査であったが，本線の外側にのびる平安水田の東西畦畔が19条（大畦３条）確認された。遺物は大畦直上より出土した内黒土器のみであり，平安以前の遺構・遺物は認められなかった。

8　前田（まえだ）遺跡群（北陸新幹線関連）

所　在　地：佐久市大字塚原字野岸1646－１ほか　　調査担当者：藤原直人
調 査 期 間：平成７年５月８日～16日　６月５日
調 査 面 積：3000m²

佐久市の北西部，浅間山南麓の第一軽石流に覆われた塚原泥流を基盤とする緩斜面の末端，標高690mを測る台地上に位置する。

昨年度の調査では，古墳時代初頭の竪穴住居跡２軒，中世の竪穴状遺構５軒などが確認されている。本年度の調査は，まず試掘を実施した結果，ほとんどが削平されていたが，僅かに原地形を留める箇所から中世の竪穴状遺構が２軒検出された。遺物は土師器片・内耳土器片が少量出土している。

昨年度の調査結果と合わせて判断すると集落・遺構の広がりは地形の傾斜等の点から，調査区の北側の方が濃密であると考えられる。

9　国分寺周辺遺跡群（こくぶんじしゅうへん）（北陸新幹線関連）

所　在　地：上田市国分1999ほか　　調査担当者：豊田義幸　尾見智志　柳沢　亮
調 査 期 間：平成７年８月１日～９月29日
調 査 面 積：700m²
遺跡の立地：千曲川右岸の最下位段丘（千曲川水系神川右岸の低位段丘？）
遺跡の特徴：河岸段丘上に広がる弥生後期・古墳・奈良・平安の集落跡

主な検出遺構

遺構 時期	住居跡	掘立柱建物跡	土坑	溝跡
弥生後期～平安	36	1	88	2

主な出土遺物

土 器 な ど：縄文土器，弥生後期土器，土師器，須恵器，灰釉陶器，土錘
石 器 な ど：打製石斧，敲石，擦石，石皿，白玉
金 属 製 品：鉄滓，刀子　　そ　の　他：骨片

本遺跡は，昨年度，調査区の主要部8,590m²を調査。本年度は，新幹線に沿った上田市バイパス道路と歩道橋建設に当たる部分を調査した。

今年度調査で検出された遺構の大半は，昨年度と同様に古墳時代から平安時代にかけての住居跡である。その遺構密度は非常に濃密であり，調査区端が現千曲川段丘崖に15mと近づく状況ながら，各時期共に集落の広がりの末端を把握するには至らなかった。また，昨年度検出された弥生後期に造られた溝ＳＤ303は，ほぼ千曲川と平行しつつ，北西に向かい調査区外へ抜けることが判明した。住居のカマドはほとんどが河原石で構築され，住居内に大形の河原石が投げこまれた廃棄行為が認められるものもあった。

出土遺物は，弥生時代後期の箱清水式土器，古墳時代後期の土器が中心である。上小地域における当該期の標準資料となろう。

10　屋代（やしろ）遺跡群（上信越自動車道関連・整理作業）

担当者：寺内隆夫，相沢秀樹，鳥羽英継，平出潤一郎，水沢教子，宮島義和

本年度は，(1)『長野県屋代遺跡群出土木簡』刊行に向けての整理、(2)土器の水洗・注記，木製品整理カードの作成と仮パック，骨の洗浄・硬化処理，鍛冶関連遺物の水洗選別，図面・写真の確認などの基礎整理作業を並行して行った。

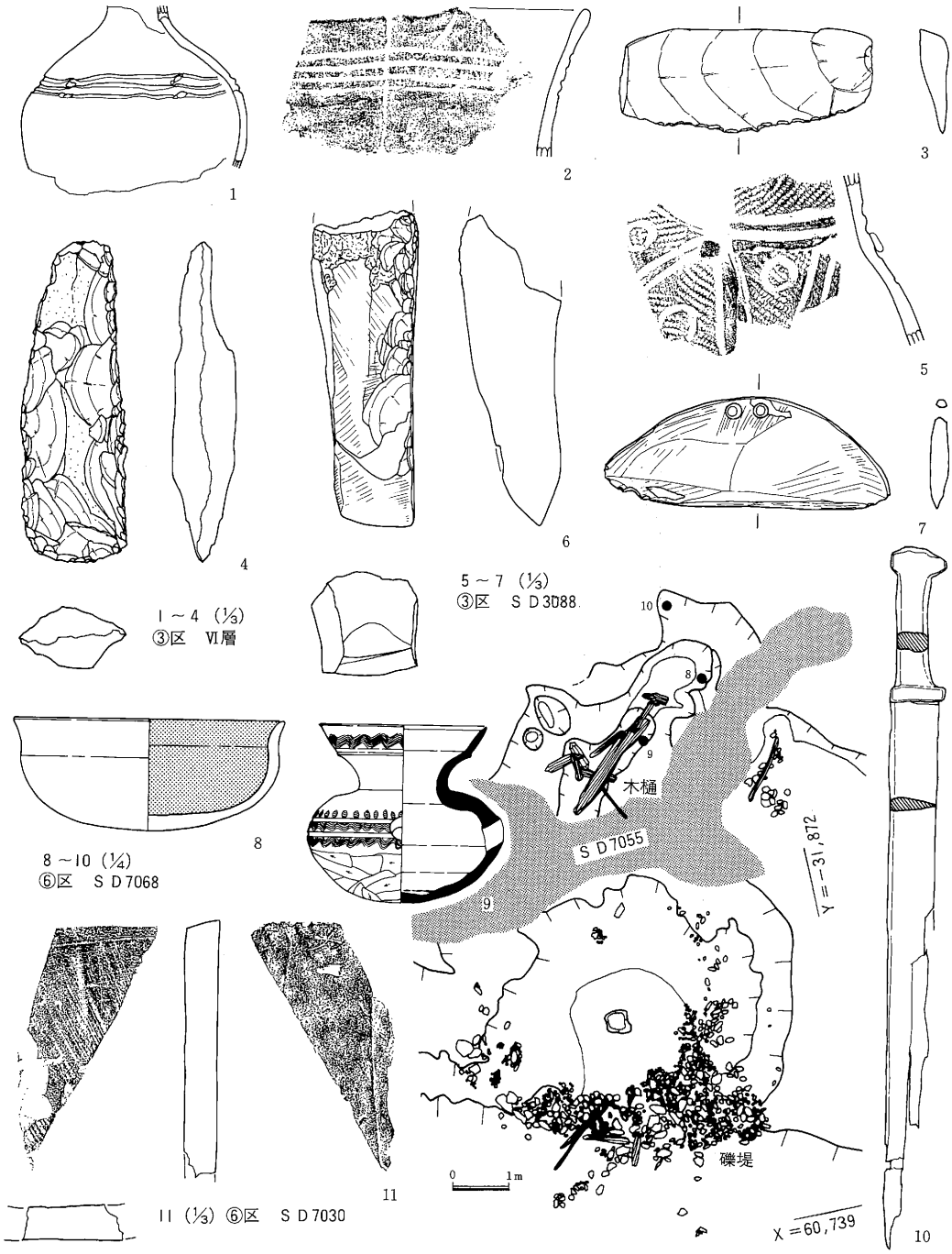
弥生時代の遺物　平成９年度刊行予定の『弥生・古墳時代編』に向かい整理を進めている。第１図１～４は③区Ⅵ（旧Ⅳｂ）層下位で集中出土した弥生時代前期併行の資料である。また，Ⅵ層中からは中期の遺物（５～７）が出土している。これらの時期の資料は更埴条里遺跡を含め広範囲から出土しており，この地域の初期水田開発の過程を考える上で貴重である。

古墳時代の湧水関連施設　⑥区では５世紀代に湧水点から導水し，祭祀に利用したと思われる施設が検出されている（第１図）。この施設からは刀形木製品・璉など（８～10）が出土している。また，施設北側の自然流路からも同時代の土器が多量に出土しているが，７世紀後半代の流路に攪乱されている点が惜しまれる。こうした施設は各地で発見が相次ぎ，近年注目されている。屋代遺跡群の場合，７世紀後半以降（６世紀代が空白となる）も，近接した場所に湧水を利用した祭祀施設が作られている点で興味深い資料である。

木簡の整理　現在までに確認できた126点について報告書を作成した。注目点の１つは，７世紀後半から９世紀中頃までの木簡が層位的に区分できたことである。これにより，製作技法，書体，文書の内容，廃棄の方法，といった諸属性の変遷を捉えることができた。２つ目は，祭祀に関わった木簡と日常使用された木簡では，廃棄場所や廃棄方法が異なっていた点である。文書・荷札木簡は土器や木製品，木屑などとともに廃棄される例が多いが，木製祭祀具へ墨書されたものは木製祭祀具廃棄ブロック中から出土し，祭祀具？に転用された琴形木製品は単独で廃棄されていた。３つ目は，「乙丑」(665年)，「戊戌」(698年)，養老７年（723年）２点，神亀３年（726年）などの紀年銘木簡が出土した点である。特に，「乙丑」を除く４点は遺物を多量に含む遺構から出土しており，土器や木製品の編年や実年代比定にとって重要な資料となろう。４つ目は，今まで皆無に等しかった７世紀後半から８世紀前半の信濃国の地名・人名・末端行政の内容が数多く記されていた点である。これらは，都から離れた地域における古代史を復元する上で貴重な史料となろう。５つ目は，文字以外の属性分析から，時期と地域による製作技法の違いが推定されること。あるいは，「国符」「郡符」木簡といった重要文書の廃棄方法を明らかにできた点である。以上，木簡報告の要点をあげたが，詳細については『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書23－長野県屋代遺跡群出土木簡』を参照していただきたい。

瓦の検出　木簡の内容から官衙の存在が注目されたため，木簡出土遺構の伴出遺物を優先して整理を進めている。現在のところ，単独で官衙の存在を証明できる資料は見つかっていないが，８世紀前半に比定されるＳＤ7030から平瓦片が３点，水洗中に見つかった（11）。上信越道関連の調査では瓦葺きの建物跡は検出されていないが，少なくとも８世紀前半より以前，近隣に瓦葺きの寺院か官衙が存在していたことを示す資料である。現段階では雨宮廃寺が有力視され

るが，こうした時期に創建されていたとすると，木簡群の時期とも一致する。郡家（郡衙）の近隣に古代寺院が存在する例も多く注目される遺物である。



第１図　屋代遺跡群出土遺物およびＳＤ7068平面図（Ｓ＝１／120）

(2) 長野調査事務所

発掘調査の概要

調査遺跡数：5遺跡（10,493㎡）

調査面積：北陸新幹線関連：長野市篠ノ井遺跡（500㎡），石川条里遺跡（1,000㎡），浅川扇状地遺跡群（3,690㎡）

国営アルプスあづみの公園関連：穂高町小川広場遺跡（3,320㎡），大町市山ノ神遺跡（1,983㎡）

調査期間：平成7年4月10日～平成7年12月5日

本年度の発掘調査のうち北陸新幹線関係の諸遺跡は，すべて用地買収等の関係から調査未了となっていた箇所である。面積は狭く両側は工事着工済みで，調査条件は劣悪であった。篠ノ井遺跡では古代と弥生時代の後期の2面の集落が調査され，これまでの所見を追認できた。石川条里遺跡では平安時代の水田の広がりが追跡でき，遺跡の範囲の一端が判明した。浅川扇状地遺跡群では2地点が調査され，古墳時代や中近世の集落が把握された。

国営アルプスあづみの公園関係の2遺跡は本年度から調査に着手した。ともに遺跡の周囲を把握するための試掘調査で，その結果に基づいて開発計画と調整することになる。遺跡はいずれも事務所からかなり離れており，今後の調査体制を組むうえで課題が残った。小川広場遺跡からは穂高古墳群F支群に属する2基の煙滅古墳が発見された。いずれも横穴式石室をもつ円墳の可能性が高い。山ノ神遺跡からは縄文時代早期の押型文土器の良好が包含層が広範囲に存在することが確認された。石器や剥片も多量に出土しており，集落がある可能性が高い。

整理作業

対象遺跡：［長野・上信越自動車道］石川条里遺跡，篠ノ井遺跡群，松原遺跡，北平遺跡，大星山古墳群，榎田遺跡，［北陸新幹線］更埴条里遺跡，屋代遺跡群，篠ノ井遺跡群，築地遺跡，川中島遺跡，浅川扇状地遺跡群，三才遺跡

北平遺跡・大星山古墳群（高速道路関係）は遺跡の検討を終え報告書を刊行するに到った。また，他の遺跡は次年度以降の報告書刊行にむけての整理作業を実施した。

高速道路関係では、いずれの遺跡も昨年からの継続作業であった。石川条里遺跡では，多量の農具を始めとする木器の整理がほぼ終了し，祭祀域の遺構・遺物の検討が進み，遺跡そのものの評価について検討する段階に入った。篠ノ井遺跡群では，遺物の実測・検討を終えて，遺構との突き合わせや遺跡全体の検討に入りつつある。松原遺跡では，縄文時代については遺物・遺構の実測・検討が進み，弥生時代については土器の接合を進めており，いずれも帰属時期がおおむね判明した。また古代については木器の実測を行っている。榎田遺跡では木器・土器の整理が進展し、特に木器については新知見が続出している。

新幹線関係では残余の発掘調査等に追われて当初計画どうりには進まなかったが，更埴条里遺跡・屋代遺跡の遺物実測がほぼ終了し，他の遺跡についても遺物の接合等を始めている。

地図３　長野調査事務所関係調査遺跡(1)（１：100,000）

地図 4　長野調査事務所関係調査遺跡(2)（1：100,000）

1　篠ノ井遺跡群（北陸新幹線関連）

所　在　地：長野市篠ノ井塩崎　　調査担当者：澤谷昌英　和田進

調 査 期 間：平成７年９月４日～11月17日　調 査 面 積：500m²　　山崎まゆみ　藤森俊彦

遺跡の立地：千曲川左岸の自然堤防　時期：弥生時代後期，古墳・奈良・平安時代，中世

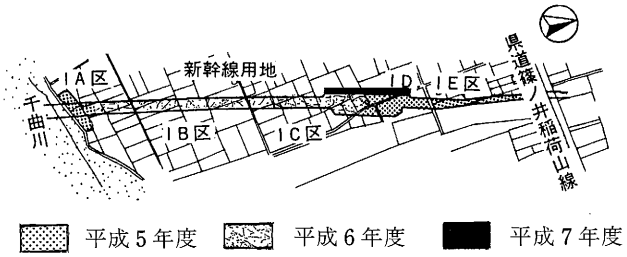
遺跡の特徴：弥生時代後期の居住域・墓域，古墳時代後期・奈良・平安時代前期の居住域

検 出 遺 構

遺構 / 時期	竪穴住居跡	竪穴状遺構	掘立柱建物跡	土坑	溝跡	その他
弥生後期	14	3		45	3	
古　　墳	11			76	2	
奈良・平安	17		3		1	堤防２　焼土跡１
中　　世						井戸１

主な出土遺物：弥生後期土器，古墳～平安時代の土師器・須恵器，編物石，石鏃，勾玉，管玉，土製棗玉，ガラス小玉，卜骨，獣骨

足掛け３年に渡った篠ノ井遺跡群の調査は，本年度側道部分（１Ｄ・Ｅ区）延長94ｍを調査して完結した。現地表下約1.5ｍの第１面からは古墳時代後期から平安時代の住居域が，約２ｍの第２面からは弥生時代後期の住居域及び墓域が検出された。



第２図　篠ノ井遺跡群調査区

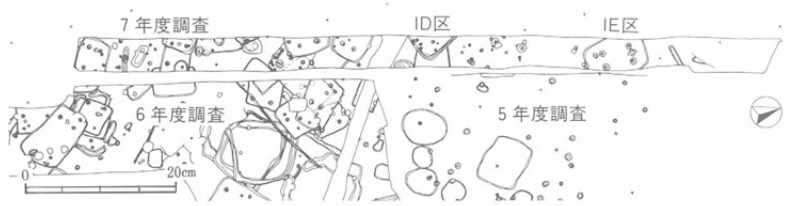
弥生時代後期　竪穴住居跡は３年間の累計が54軒を数える。１Ｃ・Ｄ区の住居跡群の激しい重複関係は，何度も住居選地された微高地の好適条件を示す。JR在来線の東の50ｍ付近から東側へ当時の地形が急激に傾斜している事，１Ｅ地区を北上するにつれ遺構密度が希薄になる事や，高速道篠ノ井遺跡の調査から，集落の中核は１Ｃ・Ｄ区の更に南西に拡がると思われる。ムラの北西側に生産域，南東側に墓域という構図が思い描ける。

住居跡は４本主柱隅丸長方形プラン，よく叩き締められた貼床，短辺主柱間に地床炉というのは過年度調査と変わりない。入口施設をもつ住居跡２軒も検出された。３年間の調査では，炉の形態は凹みをもたない平坦な地床炉が大多数で，土器埋設炉・土器片敷炉がごく僅か，炉辺石をもつものにいたっては皆無で，土器利用炉と炉辺石をもつ炉を合わせた比率は千曲川流域の箱清水期の他遺跡と較べても圧倒的に少ない。遺物には箱清水期後半の土器と玉類がある。

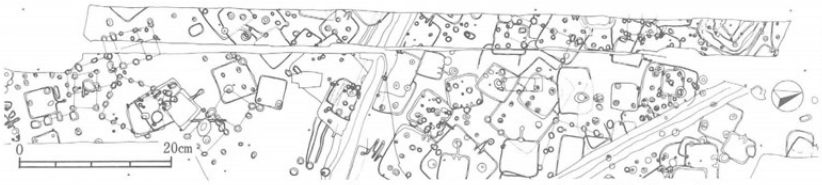
過年度の１Ｄ区で方形周溝墓・土器棺墓・土坑墓（？）が検出されており，今回の１Ｄ区においても骨片を含み上部に土器を副葬した土坑が２基以上，住居跡群と交錯して見つかった。

古墳時代　竪穴住居跡は11軒検出され，ほとんどが後期のものである。竪穴は４本主柱１辺４～８ｍの方形プランで竈は決まって北西に向く。高速道用地では古墳後期の住居跡が検出されていない篠ノ井遺跡群において，遺物・遺構は６年度の成果と合わせて貴重な資料となろう。

奈良・平安時代　竪穴住居跡は過年度調査の続き４軒を含む17軒を調査した。竪穴は一辺４～５ｍの方形で，主軸は古墳時代後期と約45°程ずれて新幹線の路線方向と同一または直交するものが主流で，柱穴が検出されないものが多い。奈良時代の565号住居跡では径１ｍ弱という



第3図　ＩＤ・Ｅ区弥生後期面遺構分布図



第4図　ＩＤ・Ｅ区古代面遺構分布図

第5図　第Ｉ面全景

幅広の火床上に左右２つの支脚抜去痕があり，カマド天井部には甕を据える穴が並設されていたと考えられる。掘立柱建物跡は６年度の続き１棟を含む３棟を調査した。

今までの調査から　『年報11』で１Ａ・Ｂ区の円形周溝墓の副葬品から、装身具は釧が大人，玉類は専ら子供という記述をしたが，人骨のクリーニングでガラス小玉をもつ成人の埋葬骨が複数見つかり，見解が改まった。３体は玉が顎の中にあり，埋葬儀礼として注意を要する。

過年度住居跡出土の鉄製品ではＸ線鑑定で鎌と板状鉄刃が判明し，北部九州で弥生終末期に普及したこれらが，篠ノ井の箱清水終末期に水田稲作と結び付いていたことがはっきりした。

試掘を含む４年間の調査で，古墳～平安時代では竪穴住居跡164軒，掘立柱建物跡29棟，溝跡30条，土坑約450基以上などを検出した。

2　石川条里（いしかわじょうり）遺跡（北陸新幹線関連）

所　在　地：長野市篠ノ井大当　　調査担当者：澤谷昌英　和田　進　田中正治郎

調査期間：平成７年４月11日～４月21日

調査面積：180㎡（対象1,000㎡）

遺跡の立地：千曲川自然堤防の後背湿地

時　　期：平安時代，近世　遺跡の特徴：平安時代の条里水田

検出遺構：畦畔×５，水田面×６，近世溝跡×４

地点はみこと川団地の西側で，６年度調査の100m南側，岡田川から60m北側である。掘削深2.5m（盛土1.5m含む）で９世紀末の洪水砂に覆われた条里水田に達し，調査区幅僅か１～２ｍを延長105m面的に調査した。長野市教委による推定坪境が東西方向に横切る部分は，宅造の際か大幅な攪乱を受けており，推定坪境の成否の判断材料は得られなかったが，市教委調査済みの東側に隣接する側道部分と合わせて観ると，東西の畦は見事に付合し，南北の畦は一定間隔で出現することが判明した。南北の畦は

第6図　平安水田

“坪”を10分割する畦，東西の畦は更にそれを個々の水田に分割する最小の畦である。今後も広範囲の調査継続により条里水田の範囲・規模，開拓前後の土地利用，埋没後の再開拓の時期などの解明が望まれる。尚，田面の遺物は土器片３片のみであった。

3　浅川扇状地遺跡群（あさかわせんじょうち）

Ｗ－８Ｃ・Ｄ区

所　在　地：長野市古野　　調査担当者：両角英敏　山崎まゆみ　藤森俊彦　田中正治郎

調 査 期 間：平成７年４月３日～６月30日

調 査 面 積：1,280㎡

遺跡の立地：浅川の扇状地上

時代と時期：古墳時代前期

遺跡の特徴：古墳時代前期の居住域

主な検出遺構：竪穴式住居跡９，竪穴状遺構１，掘立柱建物跡３，溝跡１，土坑57

主な出土遺物：土師器（古墳時代前期）

第７図　７号住居跡調査風景

昨年の調査では本地区の南西側で古墳時代前期の遺構が，また北東側で弥生時代後期の遺構がそれぞれ確認されている。よって本地区はその両方の時期の遺構が検出されると予想された。ところが実際に確認されたのは古墳時代前期の遺構のみであった。本地区北端部には自然流路と考えられる溝が存在しており，これを境に弥生時代後期の居住域と古墳時代前期のそれとが区切られているとも考えられるが，調査区の制約もあり判然としない。本地区は攪乱がひどく遺構・遺物ともに少なかったが外来系の土師器等も出土しており注目される。遺跡の中心は調査区の西側と思われ，今後周辺地域での調査が期待される。

Ｅ－８区

所　在　地：長野市上駒沢　　調査担当者：澤谷昌英　和田　進　藤森俊彦　田中正治郎

調 査 期 間：平成７年５月８日～７月27日

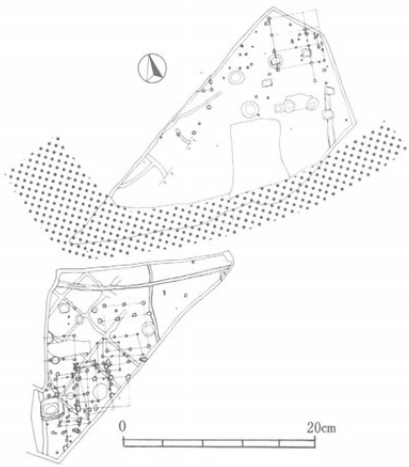
調 査 面 積：1600㎡（対象2,410㎡）

遺跡の立地：浅川扇状地の扇端

時代と特徴：中世後半以降の溝で区画された集落

検 出 遺 構：掘立柱建物17，柱列１，溝跡９，井戸12，土坑墓２，土坑165，畦畔11，貯水遺構１

主な出土遺物：土師器，須恵器，ほうろく，かわらけ，白磁，瀬戸，美濃，伊万里，肥前，唐津，漆椀，木製鍬，曲物，杭，木枠，石臼，凹石，五輪塔，鎌，包丁，針金，人骨，鹿の角



第８図　第Ｉ面遺構分布図

Ｅ－８区の両端が過年度調査済みで，その中央部を調査した。第２面の中世前期では掘立柱１，柱列１，井戸１，

溝3，土坑80を検出した。第1面では後の土地利用で削平された15世紀以前の水田畦畔の痕跡が最古で，傾斜地に対処した小区画となっている。他は中世後期～近世の所産で，館堀跡（図網掛）と同一・直交方向に小溝・建物跡が計画的に配列され，建物群（7割が角柱基部残存）・井戸・墓は区画の中でも更に特定の範囲に配列されている事，堀跡の遺物が17世紀後半に断絶するものの15～19世紀にわたる事から，戦国時代にできた土地区画が幕末まで踏襲されたようだ。E－9区・市教委の調査成果と併せると，堀に囲まれる部分は単一ではなく複数即ち“屋敷群”を成しており，その核に神社が想定される。

4　仮称小川広場（おがわひろば）遺跡（アルプスあづみの公園関連）

所　在　地：南安曇郡穂高町　　調査担当者：田中正治郎　両角英敏
調査期間：平成7年10月3日～10月18日
調査面積：3,320m²（対象33,287m²）　　遺跡の立地：烏川扇状地上

本地区には穂高古墳群F群に属する古墳が2基存在しており，今回の試掘も埋没古墳の発見に主眼が置かれた。その結果やや不明確ながら古墳らしい配石二か所を確認した。それ以外では流れ込みと思われる縄文土器片，土師器片をわずかに採集したのみである。

5　山の神（やまかみ）遺跡（アルプスあづみの公園関連）

所　在　地：大町市常盤　　調査担当者：田中正治郎　両角英敏
調査期間：平成7年10月19日～12月5日
調査面積：1,983m²（対象35,950m²）　　遺跡の立地：乳川扇状地上

山の神遺跡は縄文時代早期～中期の遺跡とされているが本格的な調査は行われたことがなく，現況も山林・原野のままであった。今回の試掘では多くのトレンチから縄文早期の押型文土器に混じって，特殊磨石・石鏃等が採集され，特に石器製作にかかわる原石・石片はかなりの量にのぼった。明確な遺構は発見されなかったものの出土した遺物の量から見て遺構の存在は確実と思われる。

6　石川条里遺跡（長野自動車道関連・整理作業）

石川条里遺跡は長野市の南端，千曲川左岸の後背低地に立地し，㈶長野県埋蔵文化財センターでは中央自動車道長野線建設に伴い昭和63年から平成元年にかけて発掘調査を実施した。発掘終了以来すでに6年の歳月がたち，発掘時には大変注目された遺跡ながら，新聞などで新発見の遺跡が次々に取り上げられているなかでは忘却のかなたにかすんでしまった感もある。しかし，平成3年度以来，本格化した整理作業も大詰めの段階に到達しつつあり，現在の作業状況と整理で判明した微高地の古墳時代遺構の様相について，簡単な中間報告として紹介したい。

1　遺跡の概要と整理状況

石川条里遺跡の現在の地形は西側山麓から後背低地へむけて東へ緩やかに傾斜する地形となっているが，発掘の結果，発掘域北東半分は水田遺構が広がる低地で遺跡南西部はいくつか

の河川跡状の低地と埋没微高地が組み合う地形となっていたことが判明した。なかでも発掘対象地のほぼ中央に位置する埋没微高地では縄文前期初頭，古墳時代前期末，中世の３時期を中心とする居住遺跡が検出され，特に古墳時代は全国的にも類例のない特殊な遺構群であった。古墳時代の遺構群は東西約125m，南北約60m以上の範囲が幅10～13mの溝で区画され，その内部に大量の土器を含む土坑群が集中するものであり，遺構の特殊性にくわえ，釧や車輪石，銅鏡，銅鏃，多くの玉類などの出土もあって大変注目を浴びることとなった。

整理作業は微高地と水田域の遺構・遺物の違いからそれぞれ１名の担当を置き（平成６年度は微高地２名），写真と土器復元，保存処理の別セクションの協力を得て進めてきている。これまでの整理の大半は発掘で得られた膨大な土器と木器の整理についやされたが，それも一段落し，いよいよ報告書としてまとめる段階へ入っている。しかし，様々な時代の多岐にわたる膨大な資料と対峙して，常に迷いと苦しみの連続で苦戦している。

2　整理で新たに判明してきたこと

整理を進めているなかで新たに判明したことがある。そこで限られた紙幅ながらいくつか中間報告として紹介することにしたい。

①遺構の構成

古墳時代の遺構は土坑群が分布する中心部を大溝が区画し，大溝外側では西に平行する溝，東に土器集中区域が配置される。このことから本遺跡は大きく中心・外部と表・裏といった２つの意識によって空間が構成されるようである。大溝区画内部の土坑群は発掘時には大量の土器と炭層が特徴的に認められ，形態・規模・分布はランダムながらほぼ類似した性格のもので，中心部は単一の空間と思われた。しかし，整理で改めて土坑を比較してみると土器の出土量，出土状況，深さや規模の違いが認められ，多様な性格の土坑が計画的に配置されている可能性が捉えられるようになった。特に深さが１mを越える井戸の可能性がある土坑の分布をみると大溝脇にほぼ等間隔に位置しており，極めて計画的に配置されているように見受けられる。さらに，帯状に土坑が存在しない空白部があることから内部には道があり，この道によって複数の空間に分節されていた可能性も考えられるようになった。この内部の分割された空間の意味は明らかにできていないが，南西部では羽口や漆の付着した小型丸底土器などが比較的集中して検出されている。今後は時期的な変遷を含めて検討を進めたい。

②土坑の土器出土状況

中心部に分布する土坑群で出土した土器は発掘時にも破片・完形といった出土状況の違い，さらに器種の違いがあると推測されていた。この様相をどのように共通した基準で資料化し，比較可能なものとするかが整理の課題であった。そこで，まず，出土土器量を重量と種別の破片数でカウントしてみたが，誤認も多く，器種の異なる土器相互の比較が難しいなどの不都合を生じた。そこで，小林健一氏が実施した方法（小林他1989『郵政省朝倉分館』港区教育委員会）を参考にし，各土坑ごとに土器口縁部のみを抜き出し，その遺存度を８分割した同心円のチャートにあて，８分のいくつ遺存するかを集計してみた。勿論，このデータは発掘・整理作業の方法や質，さらに遺構の遺存状況に左右されるのでそのまま実態数として比較することは

難しいが，大きく３つあり方の傾向があるように見受けられた。それは全くの小型破片出土のみ，小型から中型破片，略完形や完形の大型破片までの３種であり，さらに小・中・大型破片相互のあり方で細分できそうである。小型破片のみの場合は全くの混入，さらに中型破片まで含む場合は混入・あるいは近在での破損－遺棄，大型破片の場合は土坑への遺棄といったケースを想定するならば，土坑群のすべてが土器廃棄を目的としたものではない可能性も出てきた。

③特殊遺物

出土遺物は多種，多量なので委細は報告書を参照していただくことにして，ここではこれまでに公にされていない特殊遺物の一部を紹介する。まず，玉類・石製品では石釧３点，車輪石１点，紡錘車型石製品１点，各種玉類があるが，土器と一緒に取り上げられた袋のなかから新たに筒形石製品１点，釧破片１点が加わった。玉類の石質は勾玉の玉髄・ヒスイ各１点およびガラス小玉を除くと滑石と緑色凝灰岩でほぼ占められ，数の上では滑石臼玉がもっとも多い。これまで石製腕飾類のみが注目されていたが，それ以外の玉も多く，しかも個々にみると異なる製作品と思われものが多い点や種別に出土地点が異なる傾向が窺え興味深い。特に石製腕飾類は大溝から出土しているが，いずれも溝の各辺の中央で出土しており，出土位置は偶然性によるものでなく特定の場所を意識した意図的な遺棄の可能性が高くなった。この他，ミニチュアや棒状土製品（杵か？），土玉，勾玉もあり，集落とかわらない祭祀具の出土も注意される。また，羽口・漆付着小型丸底土器，調整痕を残す砥石，加工途中の骨などの手工業関係遺物，骨鏃，連結小型丸底土器などの異形土器，支脚などがある。

④遺跡の性格

本遺跡は誰の目にも特殊に映るが，それが何かという点では議論の分かれるところである。これまでに本遺跡の性格に関していくつか見解が提示されているが，類例のない遺跡として担当者自身も迷っており，平成７年12月に大阪大学の都出比呂志教授をお招きして指導を仰いだ。都出教授の指導では個別の要素はこれまでに知られているものだが，本遺跡ではそれらの要素が複合して検出されている点が重要であるとされた。個別の遺構に関しては大溝の区画は豪族館に類似するが，溝内部にある一定間隔で配置された杭が打ち込みであることから本来的に短期間のもので，館にあるような防禦施設というよりむしろ結界のような機能をもつものではないかと指摘された。土坑についてはそれ自体が祭祀の対象ではなく，祭祀をおこなった後に空間が清浄に保たれるように片付けた結果の所産と捉えられ，建物も柱が残存していないことから最終的に破壊，柱も抜き取られて大溝に廃棄されるべき性格のものではないかとされた。遺物については手工業関連遺物やあまり使用されていない砥石の出土と合わせ，遺跡からもちだすことが忌諱された古墳埋納品の製作に関わるものではないかとされた。さらに，玉類が個々に異なることから一連の玉の一括埋納ではなく，祭に関わった人間が複数存在し，それぞれが自分の所有する玉の一部を外して埋納したのであろうと推測された。結論としては豪族館をモデルとしたモガリの施設ではないかとの指摘をいただいた。

石川条里遺跡は今回取り上げた古墳時代以外にもさまざまな時期の遺構・遺物があり，それぞれに興味深いものである。量も膨大で残された検討課題も多くなかなか苦戦しているが，これから報告書の大詰めへむけて努力していきたいと考えている。なお，都出先生の指導結果については先生の意を十分汲み取れたものか不安もある。誤りがあれば責は市川にある。

(3) 中野調査事務所

発掘調査の概要

調 査 区 域：中野市，下水内郡豊田村，上水内郡信濃町

調査遺跡数：9遺跡　中野市牛出遺跡，豊田村対面所遺跡，信濃町七つ栗遺跡・日向林B遺跡・東裏遺跡・大久保南遺跡・上ノ原遺跡・西岡A遺跡・星光山荘遺跡（以上，上信越自動車道），貫ノ木遺跡（上信越自動車道・国道18号野尻バイパス）

調査総表面積：44,400㎡　牛出遺跡2,000㎡，対面所遺跡1,500㎡，七つ栗遺跡2,500㎡，日向林B遺跡500㎡，東裏遺跡4,000㎡，大久保南遺跡3,500㎡，上ノ原遺跡4,000㎡，貫ノ木遺跡9,400㎡，西岡A遺跡13,000㎡，星光山荘遺跡4,000㎡

調 査 期 間：平成7年4月3日～12月15日

上信越自動車道関連の調査は，中野インターチェンジ以北の中野市・豊田村および信濃町において実施された。また，信濃町の上信越道関連の調査地に隣接して，国道バイパスの調査が行われた。昨年度に続き，野尻湖周辺での大規模調査が継続されたことにより，とくに旧石器時代の重要な遺構・遺物の発見が相次いだ。また，これら信濃町内の遺跡では，縄文時代草創期から前期の資料も多い。また，中野市・豊田村の古墳時代初期・中世の土器や火葬墓群の調査も注目されよう。平成5年度から継続した上信越道関連の調査は終了した。

旧石器時代では，貫ノ木・西岡A・上ノ原・大久保南・東裏・日向林B遺跡などにおいて，後期旧石器時代全般にわたり多量の遺物を出土した。大久保南・上ノ原で近接していくつも発見された環状ブロック群や黒曜石の集積，東裏の伊勢見山斜面でのAT下層のブロック群，貫ノ木の長期にわたる多数のブロック群，最終的に石斧53点を出土して終了した日向林B，瀬戸内技法との関連をうかがわせる横長剝片をまとまって出土した西岡Aなど，注目されるものが多い。3年間の調査により，後期旧石器時代全般にわたる野尻湖遺跡群の把握・地域編年への見通しが立ちつつあるといえよう。

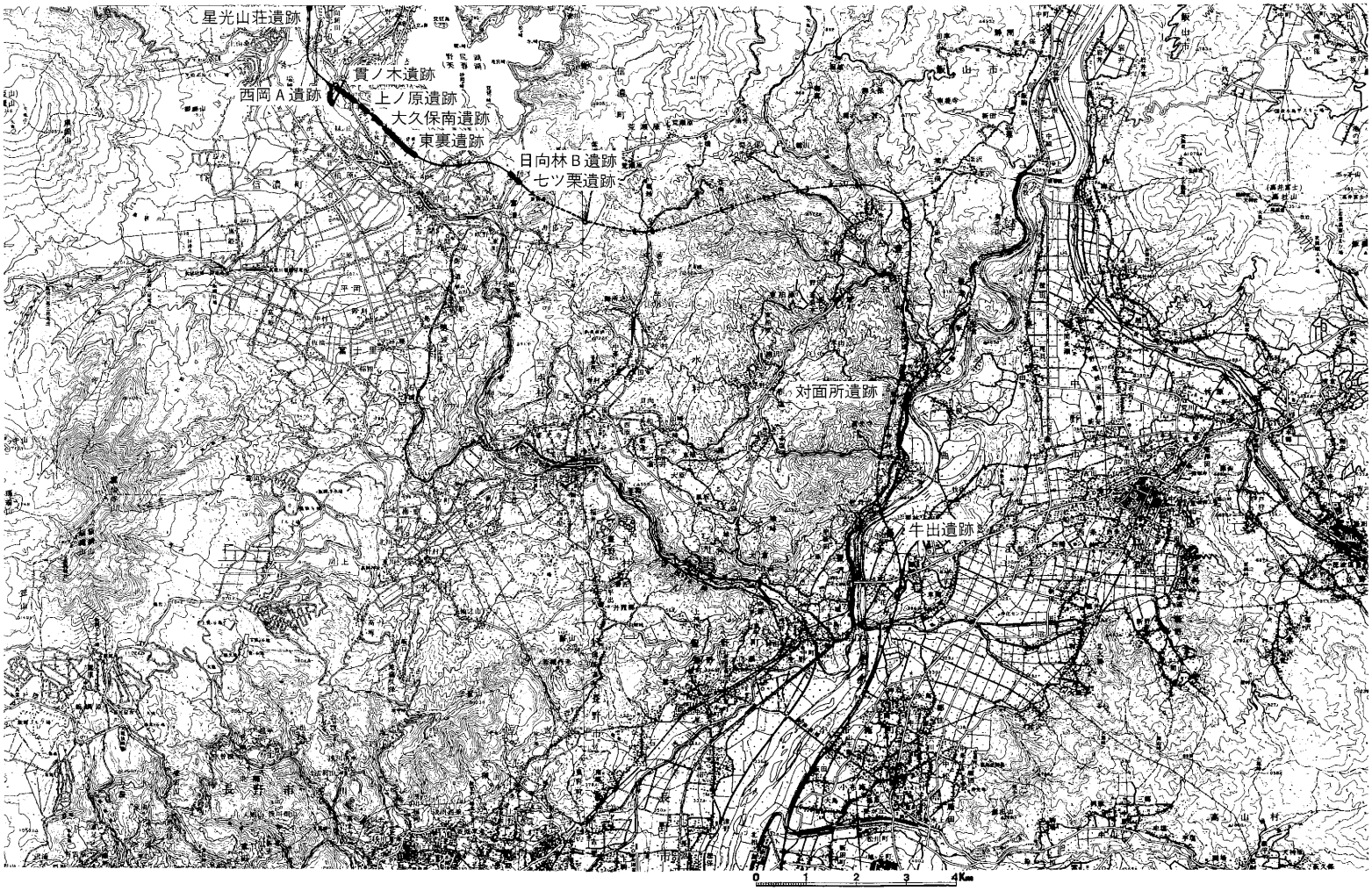
星光山荘遺跡では，神子柴系石斧16点と多量の隆起線文土器がともなって発見された。有舌尖頭器をはじめ石器が豊富で多様な器種構成を示す。縄文時代草創期としてまれにみる遺跡であり，今後の研究に重要な位置を占めるであろう。また，貫ノ木遺跡他でも縄文時代早期・前期の資料が昨年に続いて多い。

千曲川に至近の牛出遺跡では，平成3年以来資料を蓄積してきた弥生末から古墳時代初頭の集落を調査した。編年資料として重要である。

替佐城直下の対面所では，五輪塔を多数ともなう火葬墓群を調査した。中世山城との関連などが注目されよう。

整理作業

通常の冬期整理のほか，中野インター周辺の窯跡群を中心として，報告書刊行に向けて整理作業を実施した。奈良時代須恵器窯跡群の実態があきらかにされつつある。本年で整理作業を終了し，平成8年度に報告書刊行予定である。



地図５　中野調査事務所関係調査遺跡

1　牛出（うしで）遺跡（上信越自動車道関連）

所　在　地：中野市大字牛出北原191ほか　　調査担当者：臼田広之

調 査 期 間：平成７年５月15日～８月23日　　中島英子

調 査 面 積：2,000㎡　　遺跡の立地：千曲川右岸の自然堤防

時代と時期：縄文時代晩期，弥生時代中期～古墳時代前期，平安時代後半，中世

遺跡の特徴：古墳時代前期，平安時代後半の居住域

主な検出遺構

遺構 時期	住居址	土坑	井戸	溝	ピット群
古墳前期	6	3			
平安後半	12	15			
中　　世				2	
不　　明		1	1		1

主な出土遺物

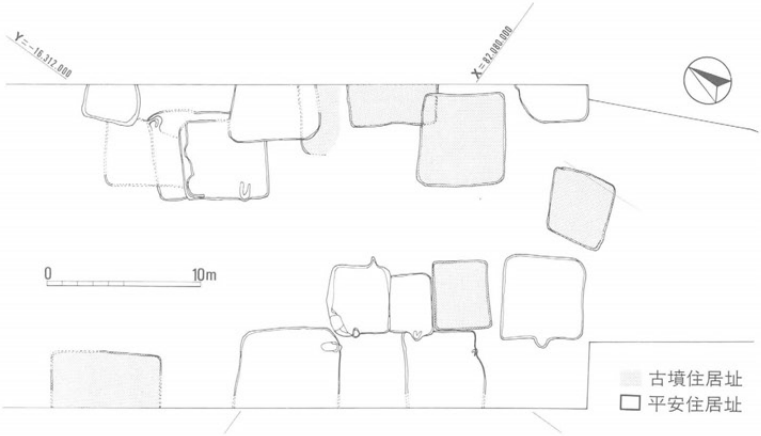
縄文土器，弥生土器，古墳時代土器
平安時代土師器，灰釉・緑釉陶器
土錘，打製石斧，石鏃，石皿，磨石
鉄製品（鋤頭側辺部，鉄鏃，帯金具）

本遺跡は，千曲川右岸脇の自然堤防に立地しているため，川寄りの遺物包含量は既に失われ調査区全面にわたって地表下約50cmまで砂層に覆われていた。地表下50cmに中世，50～90cmの層に平安時代後半，100～120cmの層に古墳時代前期の遺構が検出された。160cmまでは，弥生時代中期および縄文時代晩期の包含層であった。

古墳時代前期　住居プランは明瞭でなかったが，出土遺物の分布状態から６軒の竪穴住居址を検出した。しかしどの住居も炉跡が認められず，住居以外の施設の可能性もある。遺物は1,000点程出土し，調査区東西の住居から土師器小形甕を伴った赤彩壷が出土している。

平安時代後半　長方形をした調査区の東西にわかれて千曲川と平行に建てられた竪穴住居址が検出された。住居のカマド袖に40cm大程の石を数個並べたものも見られる。他に住居の床下から埋葬施設と思われる坏が２つ左右に並んで伏せて置かれた土坑も検出されている。遺物は主に土師器坏，甕，黒色土器椀，灰釉・緑釉陶器片等が出土した。

本遺跡は千曲川にきわめて近く，平安時代後半の焼失したと思われる住居址からは15個の土錘がまとまって出土するなど，川辺の集落の生活の一端がうかがわれた。



第９図　牛出遺跡住居址配置図

第10図　カマド検出状況

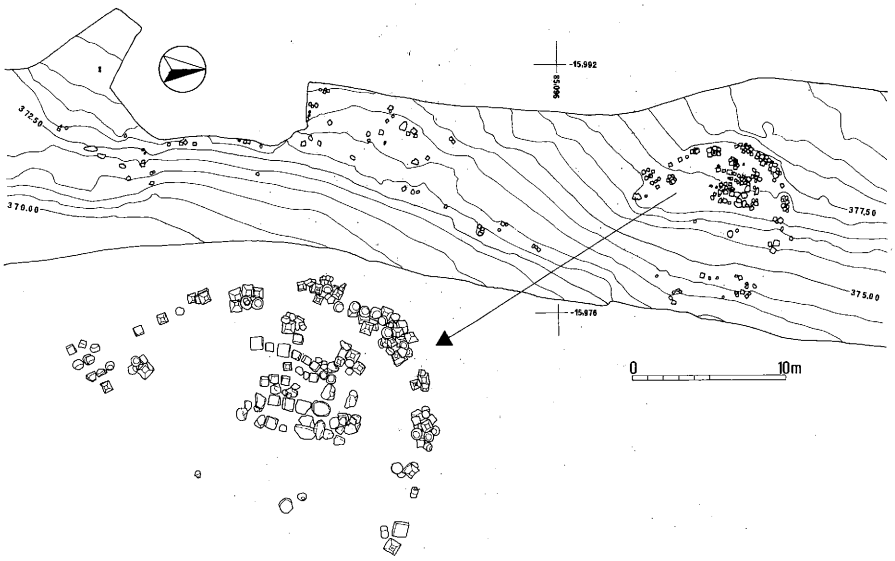
2　対面所遺跡（上信越自動車道関連）

所　在　地：下水内郡豊田村大字豊津637ほか　　調査担当者：臼田広之
調 査 期 間：平成７年４月５日～５月12日　　中島英子
調 査 面 積：1,500㎡　遺跡の立地：千曲川西岸山地の東向き急斜面　時代と時期：中世
遺跡の特徴：中世の墓域　主な検出遺構：火葬骨埋葬ピット　102基，火葬施設　４基
主な出土遺物：五輪塔，銭貨，釘，かわらけ，灰釉陶器，火葬骨

本遺跡は，千曲川西岸山地の千曲川に面した東向き急斜面に立地する下部施設を伴う五輪塔群である。高速道建設工事が始まった段階で新たに発見されたため，調査は斜面裾部から中腹部までの一部にとどまった。急斜面を段切りしたテラスが５箇所検出され，表採と合わせて総数328点の五輪塔（地輪47　水輪80　火輪127　空風輪74内墨書文字入り２）が出土した。しかしそのほとんどは急斜面のため落下したもので原位置をとどめていなかった。

その中で調査区北側の１区画では，幅７ｍ奥行５ｍ程に段切りされたテラス上において，上部施設と地輪が原位置をほぼとどめていると思われた。地輪は等高線に沿って上，下三列列状に検出された。下部施設として，区画中央部に横位に設けた溝をもつ１ｍ×1.2ｍの長方形をした火葬施設が検出された。また五輪塔下や南側にずれた位置に，数十基におよぶ火葬骨埋葬ピット（直径20～30cm）が数基ずつ単位をもつように検出された。この区画中央の五輪塔群を囲むように，地輪を除く五輪塔が埋まったような状態で積み重なって発見された。その北側に火葬施設が存在するものの火葬骨埋葬ピットはなく，この火葬施設の使用前に五輪塔が埋まったかあるいは人為的に埋められた可能性がある。

斜面頂上部から続く尾根上には替佐城と呼ばれる中世山城が位置しており，本遺跡は山城と墓域との関連という側面で好資料を提供すると思われる。



第11図　対面所遺跡五輪塔分布図

3　七ツ栗遺跡（上信越自動車道関連）

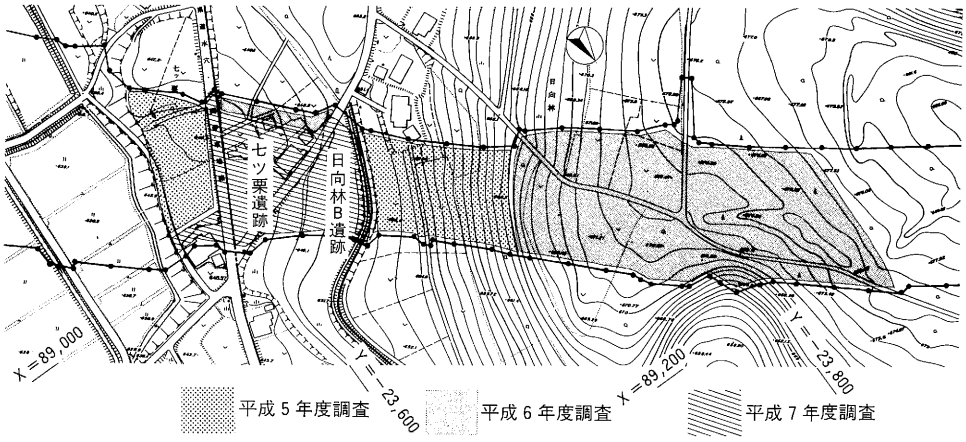
所　在　地：上水内郡信濃町大字富濃字七ツ栗2350－７他　　調査担当者：谷　和隆
調査期間：平成７年４月15日～８月４日・10月20日～10月31日　　柳沢佑三
調査面積：2,800㎡　　前田利彦
遺跡の立地：段丘裾野・標高約650m　　竹内聖彦
時代と時期：先土器時代・縄文時代早期～前期・平安時代

基本層序　Ⅰ層黒色土（表土），Ⅱ層柏原黒色火山灰層，Ⅲ層（漸移層），Ⅳ層黄褐色ローム以下は漸移的に風成堆積層から水成堆積層に変わる。Ⅴ層は調査区東では確認できる。先土器時代の遺物はⅣ層中心に出土，縄文時代の遺物包含層と平安時代の検出面ほぼ同一で，Ⅱ層中に存在する。

先土器時代　ブロックが２か所で検出されⅣ層中心に剝片類が出土した。石材は安山岩が比較的多い。先土器時代の遺物は量的に少ない。礫群は１基検出した。

縄文時代　縄文土器には表裏縄文・条痕文系の早期と羽状縄文・半截竹管文の前期の土器が出土している。４基の陥し穴は形態の類似性から同時期と考えられ，等高線に直交して一列に並ぶ。平面形は120㎝×80㎝程の隅丸長方形で，深さは検出面より約１～1.5mで底の中央に１カ所の杭痕が残っている。平成５・６年度分と合わせて15基の陥し穴が検出されたことになる。

平安時代　住居跡が５軒検出された。ともに南コーナーにカマドが存在している。うち，１軒は他の住居の倍の規模がある。墨書土器，須恵器，土師器，鉄滓なども出土した。住居跡と並んで掘立柱跡と棚列跡も検出された。遺物が伴わないため時期は明確でないが平安時代の可能性が高い。



第12図　日向林Ｂ・七ツ栗遺跡調査範囲（1：4,000）

4　日向林（ひなたばやし）B遺跡（上信越自動車道関連）

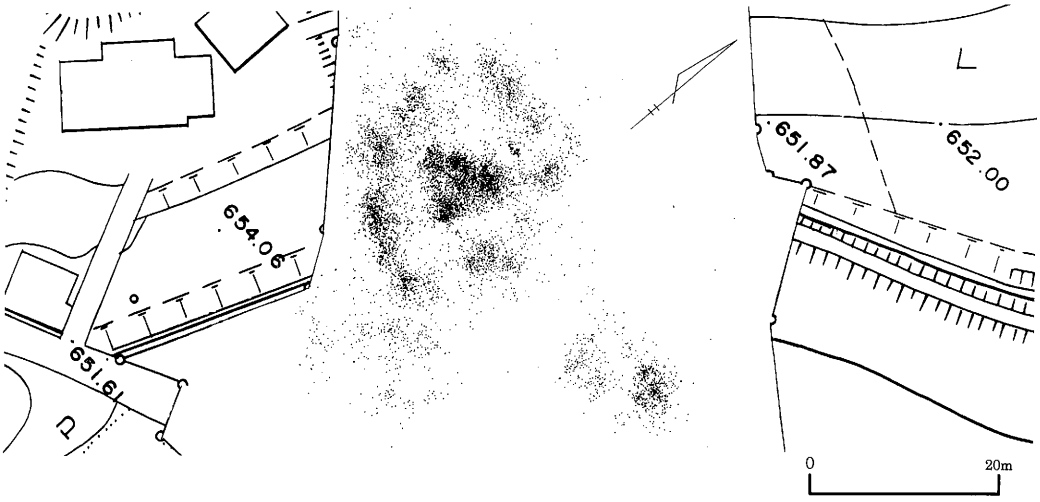
所　在　地：上水内郡信濃町大字富濃字日向林2252－10他　　調査担当者　谷　和隆
調査期間：平成7年4月5日～5月25日　　柳沢佑三
調査面積：1,500㎡　　前田利彦
遺跡の立地：旧湖（湿地）に面する丘陵南東の裾部・標高約650m　　竹内聖彦
時代と時期：先土器時代
遺跡の特徴：先土器時代の環状ブロック群
主な検出遺構：遺物集中地点（ブロック）11ケ所，礫群1ケ所
主な出土遺物：石斧，台形様石器，敲石
遺物出土層位：1ケ所のブロックと礫群がⅣ層で，それ以外はⅤb層を中心に出土する。

平成5年度調査で環状ブロック群より41点の石斧が出土しているが，今年度はそこに隣接する部分の調査がおこなわれ，環状ブロック群のほぼ全体が調査されたこととなった。

直径4m前後のブロックが30m×25mの範囲内に環状に配列し，その中央には直径約10mの大型で密度の高いブロックが存在する。また，環状に配列するブロック群の外側にも直径4m前後のブロックが数ケ所存在する。Ⅳ層のブロック以外は出土層位・石材・器種組成の一致から同時期と考えられる。

13点の石斧が新たに出土して，合計54点となった。石材は一昨年同様に蛇紋岩が多い。幅広剝片を横位に用い，表裏に平坦剝離が施される台形様石器も20点前後出土し，合計が40点を上回った。結局，ナイフ形石器は出土せず，石斧と台形様石器の単純な組成となった。

今年度で上信越自動車道建設に伴う日向林B遺跡の調査が終了したが，ナウマンゾウ狩りを背景とした生活の復元を考えさせるものとなった。この集団の生活の復元は先土器時代社会の研究に大きく貢献するものと期待される。



第13図　日向林B遺跡の遺物分布

5　東裏（ひがしうら）遺跡（上信越自動車道関連）

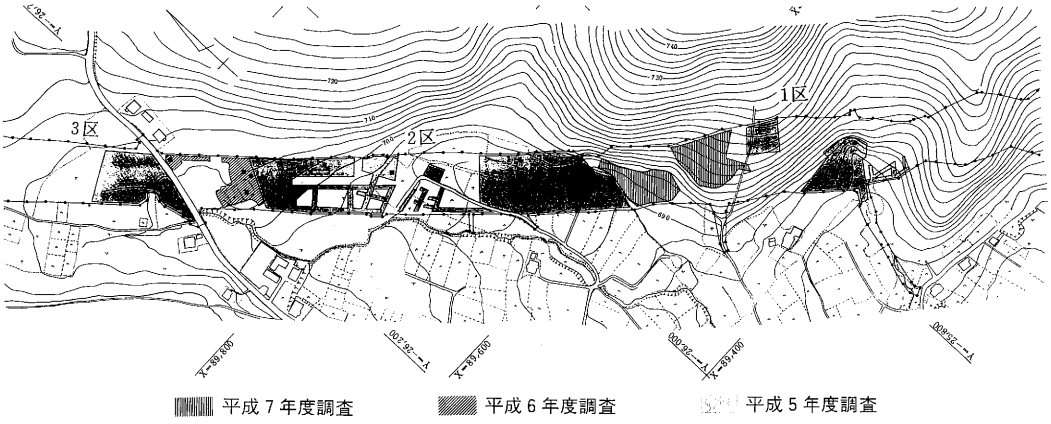
所　在　地：上水内郡信濃町大字柏原字東裏　　調査担当者：谷　和隆
調 査 期 間：平成７年７月18日～10月13日　　柳沢佑三
調 査 面 積：4,500㎡　　竹内聖彦
遺跡の立地：伊勢見山山麓の平坦部及び中腹の斜面部　　前田利彦
時代と時期：先土器時代，縄文時代早・前期，平安時代
遺跡の特徴：先土器時代のブロック，先土器時代の石器を含む流路，縄文時代の土器群
主な検出遺物：石斧，砥石，台形様石器，ナイフ形石器，縄文土器，平安時代土師器

本遺跡は野尻湖の南西約１㎞に位置する伊勢見山の南西側山麓一帯に広く展開している。本年は調査の３年目に当たり，その対象地は伊勢見山からのびる尾根上に広がる１区の旧柏原スキー場部分と，その西側直下の２区の山際平坦地部分である。１区の基本層序は信濃町の各遺跡同様の構成であるが，２区はII層（柏原黒色火山灰層）の下は水成堆積層からなっている。

１区　伊勢見山から南西にのびる尾根上の斜面（旧柏原スキー場）で，西側にかけてやや傾斜が緩やかになった斜面に先土器時代のブロックが７箇所確認された。これらの石器群は，IV層の安山岩を主体とするものと，Ｖｂ層の黒曜石を主体として石斧や砥石をともなうものがあり，二つの文化層から成る。

２区　伊勢見山西側山麓の緩斜面に位置し，湧水流路をはさんで一昨年の調査区に続く部分である。調査区の土層は中部野尻ロームの水成堆積層上にII層がのっており，II層中に縄文早期の土器や石器が含まれ，水成ロームの上面に先土器時代の石器類が認められた。先土器時代の遺物は異なる時期のものが同レベルで出土しているが，平面分布から大きく２時期に分けられ，１つは石斧を持つ石器群，もう１つは国府系のナイフ形石器を持つ石器群である。また一昨年の剝片尖頭器同様，基部に抉りをもつ九州に見られるものに類似するナイフ形石器も見られた。

本州中央部に立地する本遺跡における九州系，あるいは国府系の石器群の存在は注目に値し，今後の研究が待たれる。



第14図　東裏遺跡調査範囲（１：8,000）

6　大久保南遺跡（上信越自動車道関連）

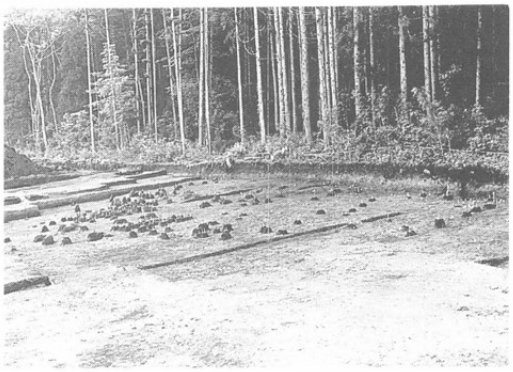
所　在　地：上水内郡信濃町大字柏原字上ノ原204ほか　　調査担当者　片山　徹
調査期間：1995年4月5日～8月12日　　久保田秀一郎
調査面積：約4,500㎡　　三木　雅博
遺跡の立地：伊勢見山より北西方向にのびる，尾根状の小丘陵の支脈が張り出した微高地
時代と時期：先土器時代　縄文時代前期
遺跡の特徴：先土器時代の黒曜石集中遺構をもつ環状ブロック・ブロック群・礫群
主な検出遺構：先土器時代　環状ブロック・ブロック群（ブロック14カ所以上）　礫群3
縄文時代　土坑3
主な出土遺物：石器　石斧　砥石　台形様石器　ナイフ形石器　尖頭器　細石核
土器　縄文時代前期

大久保南遺跡は，伊勢見山から北西に延びる尾根状の小丘陵に立地する。調査区は，この小丘陵の支脈が南に張り出した微高地上である。主要な遺物出土範囲は，調査区の南西側と北西側の別の支脈上であり，その間はやや低くなっている。層序は周辺遺跡同様であるが，断層線が遺跡内にいくつも見られる。

主要遺物として，先土器時代の石器・石核・剥片・礫は約1,300点出土した。他に縄文時代前期の羽状縄文土器，陥し穴状の土坑等も検出された。

南東側のⅣ層下部では礫群が2基検出された。微高地上で南がわずかに低い。礫の集中度が高く，赤く変色したものも含まれ，被熱を示すものと思われる。これと同時期のブロック群は明確ではない。

南東側のⅤa層下部からⅤb層上面にかけ，推定直径20mを越えると思われる環状ブロック群が検出された。中央部がわずかに高い微高地を取り巻くようになり，全体の6割ほどは調査区外に存在すると考えられる。検出された部分で，8カ所ほどのブロックからなり，そのうち



第15図　礫群（SH01）

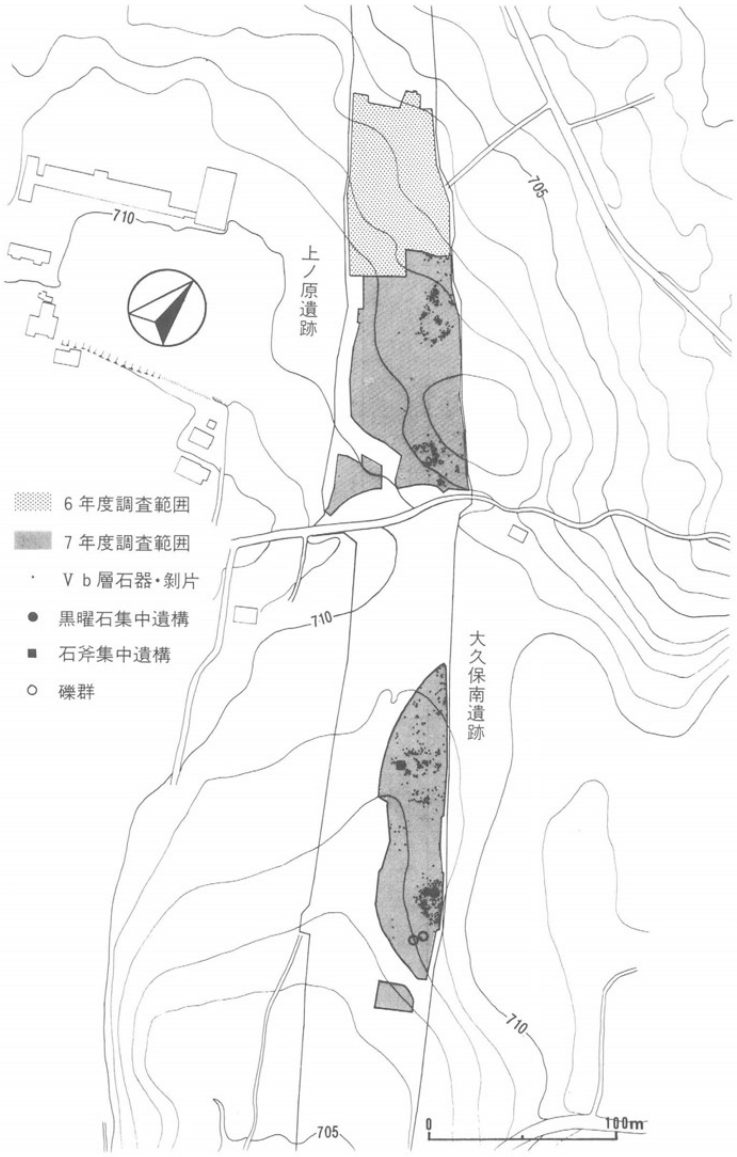
第16図　黒曜石集中遺構

１カ所は凝灰岩を主体とするが，他は黒曜石を主体とする。全体では約８割が黒曜石である。また，分析したものは大半が和田峠産であるという結果を得ている。この環状ブロック群からは，石斧10点・ナイフ形石器９点が出土し，後者には縦長剥片の基部に刃潰し加工をし，打面を残すものがある。

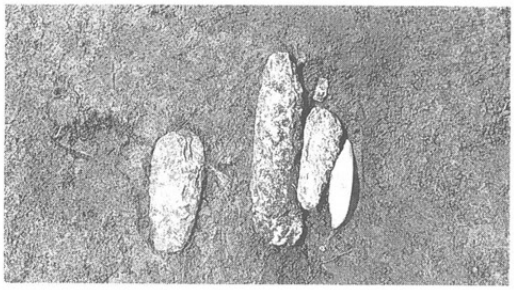
環状ブロック群内の西寄りでは同一層位で黒曜石の集積が検出されている。大形の石核・剥片約40点が直径40cm，厚さ10cmほどの範囲に集中する。出土状況からは，穴に納められたものでなく，平坦面に置かれたものと思われる。

調査区の北西側では，Ｖｂ層で数群のブロックが検出された。微高地上からその間の凹地にまで広がり，全体として半円状に分布するように見える。石材は黒曜石が少なく，安山岩・凝灰岩・チャートが目立った。主要遺物として，石斧11点・ナイフ形石器10点・砥石１点がある。石斧のうち３点は大形剥片１点とともに，並んで出土した。

他に調査区南東端では尖頭器２点・細石核１点も出土している。



第17図　大久保南遺跡・上ノ原遺跡全体図（１：4,000）



第18図　石斧集中遺構

7　上ノ原（うえはら）遺跡（上信越自動車道関連）

所　在　地：上水内郡信濃町大字柏原字上ノ原240ほか　　調査担当者　片山　徹
調 査 期 間：1995年８月17日～11月28日　　久保田秀一郎
調 査 面 積：約7,000㎡　　三木　雅博
遺跡の立地：断層による凹地のある，北向き緩斜面　　石原　州一
時代と時期：先土器時代　縄文時代　　柳沢　佑三
遺跡の特徴：先土器時代の環状ブロックおよびブロック群　　前田　利彦
主な検出遺構：先土器時代　環状ブロック・ブロック群（ブロック17カ所以上）　礫群１　　竹内　聖彦
縄文時代　土坑（陥し穴）１
主な出土遺物：石器　石斧　台形様石器　ナイフ形石器　尖頭器　掻器　細石核

上ノ原遺跡は国道18号線の東側に沿ってのびる，旧北部高校信濃町分校跡地のある小丘陵全体が遺跡範囲とされる。昨年度に引き続き，この小丘陵が北向きに緩やかに傾斜する，分校跡地北東側の地点を調査した。この地点は，伊勢見山から延びてきた尾根状の小丘陵の末端でもあり，最も低い場所である。

第19図　環状ブロック群（部分）

層序は，貫ノ木遺跡等にみられる土層と基本的には同じであった。調査区内北東側の路線境界に沿うような形で，大きくとらえて２本の断層が認められた。いちばん，段差の開いたところで１ｍを超えた。

本年度の調査では，縄文時代の陥し穴１基のほかに，先土器時代の礫群・炭化物集中箇所・Ⅲ層とⅤ層のブロック群が発見された。先土器時代の遺物は礫を含め，約2,200点であった。調査区北東側にみられた断層に重なるようにブロックが集中していた。石器の石材としては，黒曜石もみられたが，安山岩，凝灰岩，チャート，玉髄，蛇紋岩も目に付いた。

Ⅲ層の遺物としては，尖頭器・掻器・細石核があった。ブロックが２ないし３群認められたが，その正確な範囲や特徴は不明であった。

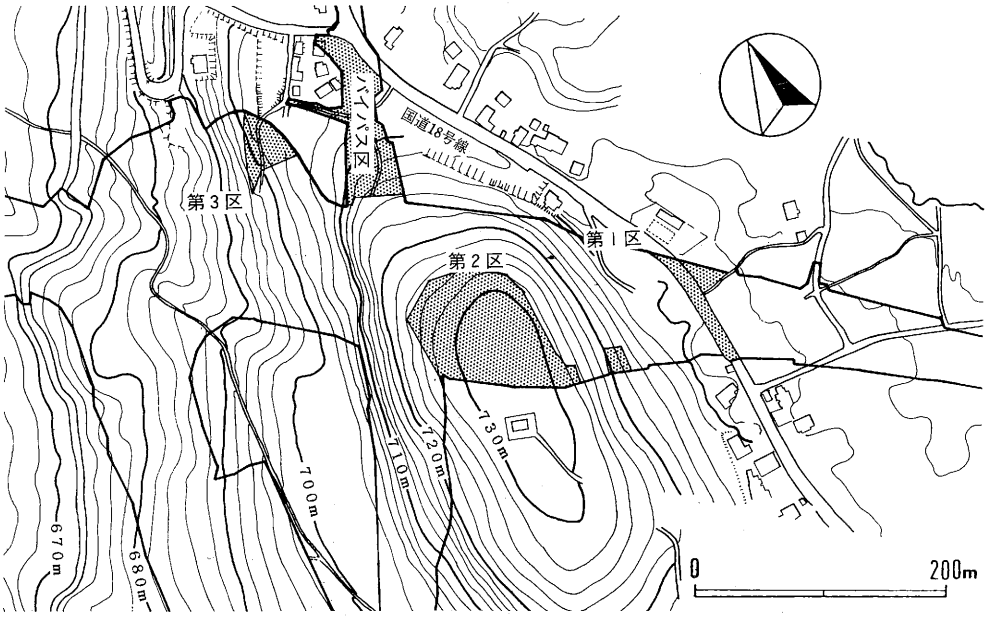
Ⅴａ層のブロックは，今年度調査区の北側から検出された。ひとつは昨年検出していたものの一部であり，ひとつは調査区外に延びる。

環状ブロック群の可能性のあるものが２基ある。これらは，断層によってできた凹地に存在する。そのうち北側のブロック群とその周辺からは，石斧５点，台形様石器４点，ナイフ形石器１点，掻器４点と敲石が出土した。Ⅴｂ層に属するとみられる。もうひとつの南側の環状ブロック群は，１ｍ余の断層の崖下の凹地に立地していた。ここからは，台形様石器，石核，磨いた面をもつ剝片を含む蛇紋岩のブロック等が見つかった。しかし，時期や特色については今後検討が必要である。

8　貫ノ木（かんのき）遺跡（上信越自動車道・国道18号野尻バイパス関連）

所　在　地：上水内郡信濃町大字野尻字貫ノ木1461他　　担当者：大竹憲昭・神林忠克
調査期間：平成7年4月3日～11月30日　　奥山宗春・小田切清一
調査面積：上信越自動車道分　11,500m²　　鈴木孝則・柳沢佑三
妙高野尻バイパス分　4,300m²
遺跡の立地：丘陵の緩斜面部
時代と時期：先土器時代・縄文時代・平安時代・近世
遺跡の特徴：先土器時代のブロック群
主な検出遺構：先土器時代：遺物集中地点（ブロック）約70ケ所，礫群　約90ケ所
縄文時代　：土器集中地点　10ケ所，土坑　37基，集石　2ケ所
平安時代　：竪穴住居跡　1軒
近世　　：墓跡　1基
主な出土遺物：先土器時代：ナイフ形石器・台形様石器・槍先形尖頭器・石斧・砥石・磨石・敲石・掻器・削器・彫器
縄文時代　：早・前期土器，石鏃，石匙，凹石
平安時代　：土師器
近世　　：人骨，釘

貫ノ木遺跡は，野尻湖の西に広がる仲町丘陵の最南端の高台に位置する。標高は700～730mあり，遺跡内は何段もテラスを形成している。本年度の調査は高速道関係の3地区，およびバイパス地区の計4地区を調査した（第20図）。



第20図　貫ノ木遺跡全体図

基本層序と遺物の出土層位（第21図）

第Ⅰ層：表土

第Ⅱ層：黒色細粒火山灰層，平安時代の遺構と遺物は上半部で，縄文時代早・前期の遺物は下半部で検出される。特にバイパス地区では本層の堆積が厚く，６～７層に分層される。

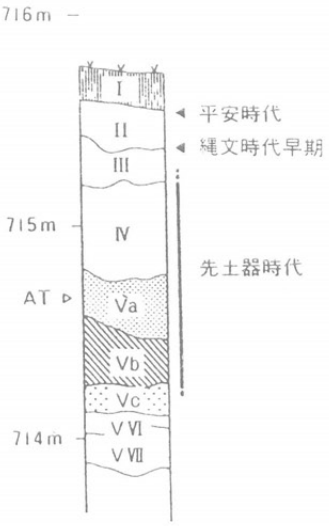
第Ⅲ層：暗褐色細粒風化火山灰層(漸移層)，下半部から先土器時代の遺物や礫群がみられるようになる。

第Ⅳ層：黄褐色風化火山灰層，槍先形尖頭器やナイフ形石器を伴う石器群が検出される。

第Ⅴ層：暗黄褐色風化火山灰層，通常ａ～ｃに細分される。Ⅴｂ層を中心に，石斧，砥石，台形様石器を伴う石器群が検出される。

第Ⅵ層：黄褐色風化火山灰層，無遺物。

第Ⅶ層：赤褐色スコリア質火山礫層，無遺物。



第21図　貫ノ木遺跡基本土層図

調査の成果

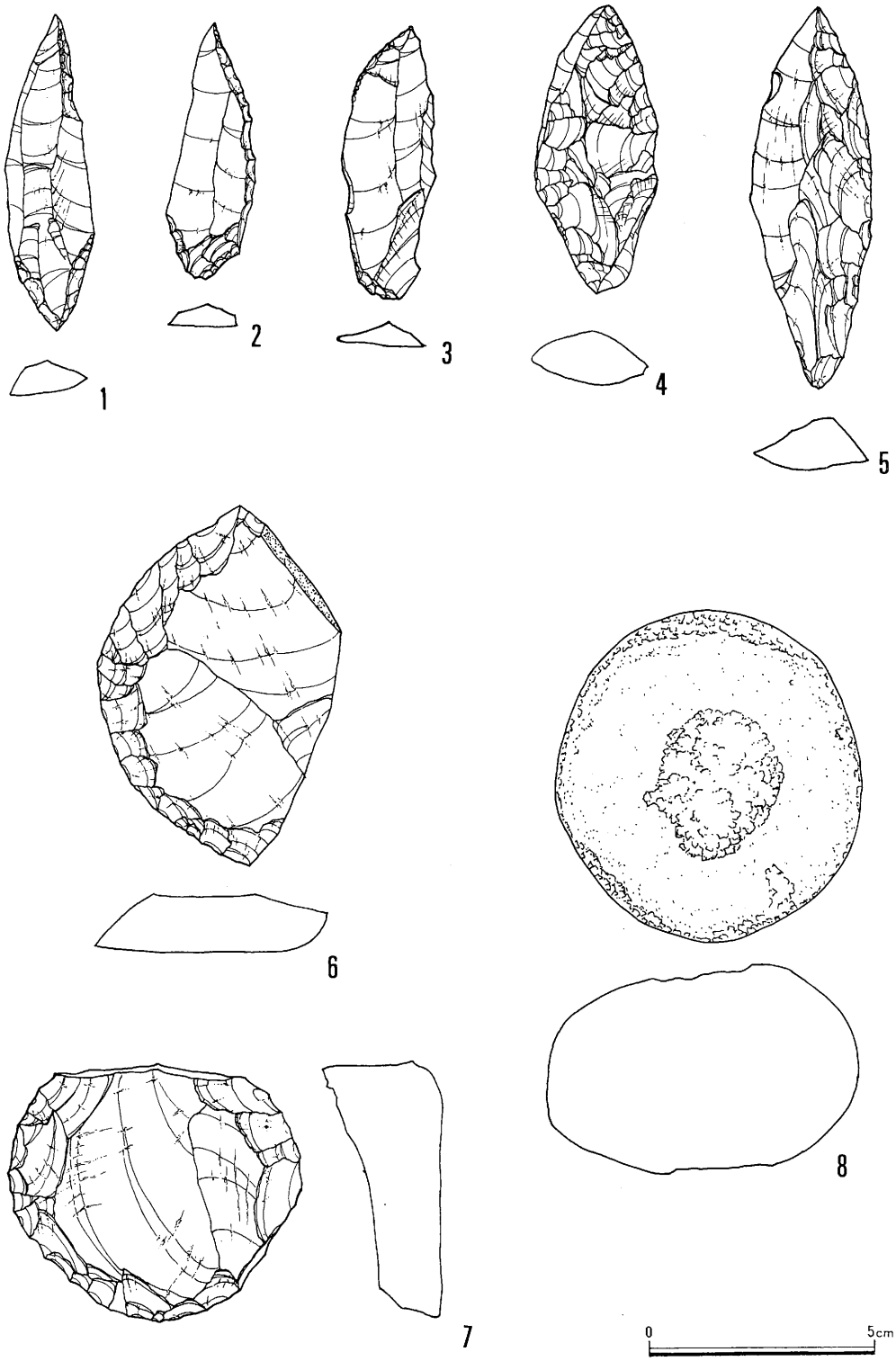
第１区：標高710m前後の東向きの微高地で，第Ⅳ層より礫群を伴うブロックを検出した。

第２区：遺跡内ではもっとも標高がある丘陵の頂部平坦地。先土器時代の遺構と遺物は第Ⅲ層下半部から第Ⅴ層にかけてみられたが，特にⅢ～Ⅳ層にかけて礫群を伴う槍先形尖頭器・ナイフ形石器の石器群が多数検出された。また，特記される遺物として磨石がある（第23図８）。安山岩製で，他にも３点ほどあり，出土層位も第Ⅳ層～第Ⅴａ層と比較的深い層位で出土している。先土器時代の磨石は近年注目されてきているが，長野県ではまだ正式な報告例はなかった。ただ従来敲石として認識されていたものの中に含まれている可能性もあり，今後，本例をもとに比較検討してゆく必要があろう。いずれにしても重要な発見例といえる。

第３区：昨年度の調査で石斧・砥石・台形様石器が多数発見された地区に連続する標高700m前後の西向きのテラス。わずかな調査面積ではあったが，第Ⅴｂ層を中心に台形様石器を伴う石器群が多数検出された。

バイパス区：調査区北側の国道沿いでは第Ⅱ層が１m以上もあり細分された。その下半部では縄文時代早期楕円押型文土器，沈線文系土器，前期羽状縄文土器が検出された。特に沈線文系土器は比較的まとまった資料といえよう。先土器時代の遺構と遺物も第Ⅳ層～第Ⅴｂ層にかけて検出した。第Ⅴｂ層から検出された礫群は赤化礫が密集するタイプであり，野尻湖周辺では今まで見つかっておらず，最古のものである（第22図）。

第22図　礫群（Ⅴｂ層）



第23図　貫ノ木遺跡出土　先土器時代の石器

（1～3ナイフ形石器，4・5槍先形尖頭器，6削器，7掻器，8磨石）

9　西岡（にしおか）A遺跡（上信越自動車道関連）

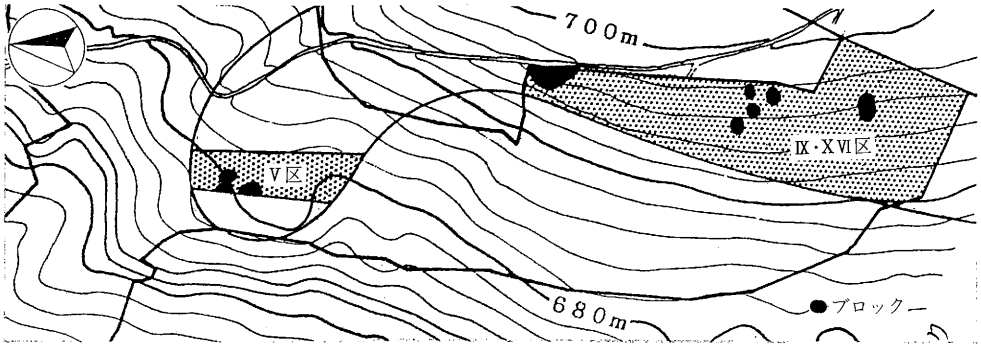
所　在　地：上水内郡信濃町大字野尻字伝九郎新田1521－1ほか　　調査担当者：酒井健次
調査期間：平成7年4月5日～10月20日　　石原州一
調査面積：14,000㎡　　代田　孝
遺跡の立地：丘陵の緩斜面部
時代と時期：先土器時代，縄文時代
検出遺構：先土器時代　遺物集中地点（ブロック）10か所，礫群17か所
　　縄文時代　陥し穴17基（早期・前期）
主な出土遺物：ナイフ形石器，石槍，角錐状石器，石刃，掻器，削器，彫器

西岡A遺跡は貫ノ木遺跡の南西に位置し，丘陵の西斜面に沿って南北に広がっている。本年度の調査区は，昨年度からの継続部（V区）と料金所予定地（IX・XIV区）に分かれている。

V区は貫ノ木遺跡から続く，標高680m前後の斜面である。ブロックは4か所検出されたが2か所は昨年度の調査で確認された継続部である。III層下部では，ナイフ形石器・石槍・掻器が検出され，すべて黒曜石製で小型である。さらに，V層からは基部調整されたナイフ形石器を含む，安山岩を中心とするブロックが確認された。

また，縄文時代早期から前期と推定される陥し穴が，17基確認された。陥し穴は北と南の低地に弧状に並び，深さは2mに達するものもある。南側の陥し穴列（3基）は，断層によって，深さ1m前後のところで底部が西へ40cmほどずれている。

IX・XIV区は，東側の斜面の上部で遺物が検出された。ブロックはIII層で2か所，IV層で1か所，V層で3か所の6か所が確認された。III層のブロックは，黒曜石を中心とするものと安山岩の横長剥片を中心とするものである。黒曜石を中心とするブロックは微細剥片が多く，石核が3点ほど出土していることから，石器製作跡と推定される。北東のV層ブロックは，この区の中では最大で安山岩を中心に約600点の石器を確認した。しかし，このブロックは全体の半分を調査しただけで，残りは調査区外となる。遺跡の中心は，このブロックが広がる東側の平坦部と推定される。



第24図　西岡A遺跡全体図（1：4,000）

10　星光山荘（せいこうさんそう）遺跡（上信越自動車道関連）

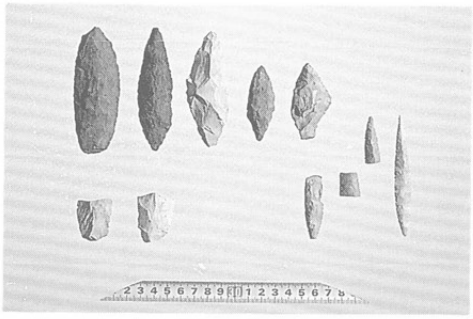
所　在　地：上水内郡信濃町大字下山桑2611－６ほか　　調査担当者：酒井健次
調査期間：平成７年５月16日～９月８日　　石原州一
調査面積：5,400㎡　　代田　孝
遺跡の立地：段丘上部の縁辺
時代と時期：縄文時代草創期・早期・前期・晩期，平安時代
検出遺構：礫群15か所（縄文時代草創期７，前期８），陥し穴20基（縄文時代前期）
焼土跡１か所（縄文時代前期），住居跡１棟（平安時代）
主な出土遺物：石器　神子柴型石斧，有茎尖頭器，石槍，削器，掻器，ドリル，砥石，すり石
土器　隆線文（草創期），絡状体圧痕文（早期），羽状縄文（前期），氷式（晩期），土師器（平安時代）

星光山荘遺跡は野尻湖の北西約２㎞に位置し，野尻湖から流れ出た池尻川左岸の段丘上の縁辺に立地している。小規模な河川が丘陵を削った浅い谷と，平坦部が連続した地形となっている。

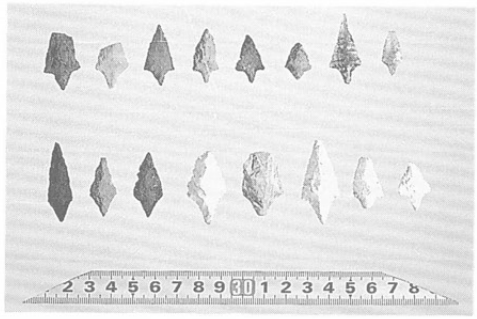
Ａ区は，星光山荘（大阪星光学院所有）の東側一帯で，西から東へ緩やかに傾斜し，標高は650～640ｍである。縄文時代前期の土器や石器が出土し，礫群８か所，陥し穴13基，焼土跡１か所を検出した。住居跡は確認されず，狩猟場のキャンプ地と考えられる。

Ｂ区は，Ａ区から約300ｍ南に離れた平坦地で，標高は652～650ｍである。縄文時代晩期土器の調査終了後，トレンチを入れたところ，神子柴型石斧が出土し，これに伴って隆線文土器片約1,000点，有茎尖頭器・石槍・削器・掻器・ドリル・砥石・すり石など約2,000点の石器が出土した。これらの遺物は，調査区の北東から南西へ長さ約30ｍ，幅約10ｍの弧状に分布している。この分布範囲の中央で，石器や大型の剥片の集中が２か所確認された。２か所とも直径は20㎝ほどで，一方は安山岩をもう一方は凝灰岩を主体とする。礫群も７か所が確認された。神子柴型石斧は16点出土し，遺物分布範囲の東側に集中している。長さは，12㎝前後のものが多く，全体的に小ぶりである。

洞穴以外の開地遺跡で，神子柴型石斧と隆線文土器が大量に検出され，先土器時代から縄文時代への移り変わりを知る貴重な資料となろう。



第25図　石槍



第26図　有茎尖頭器

整理作業（上信越自動車道関連）

担当者　鶴田典昭　中島英子

平成６年度より小布施町内，中野市内の遺跡の報告書刊行にむけて整理作業を行っている。平成６年度は古代の遺物の資料化，平成７年度はその他の遺物の資料化を行い，８年度刊行予定である。

対象遺跡及び主な遺物遺構は下記の通りである。詳細は『年報』８～10を参照して頂きたい。

玄照寺跡遺跡・・・中近世掘立柱建物跡，井戸，火葬施設。

飯田古屋敷遺跡・・中近世溝跡。近世木製品。

がまん淵遺跡・・・弥生時代後期集落跡。先土器時代石器製作跡。縄文時代早期土器・石器。

沢田鍋土遺跡・・・古墳時代前期粘土採掘跡。奈良時代窯跡。先土器時代ブロック。

清水山窯跡・・・・奈良時代窯跡。縄文時代粘土採掘跡。

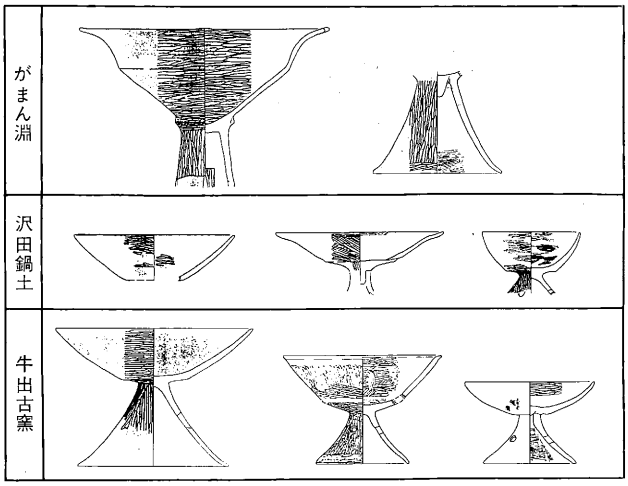
池田端窯跡・・・・奈良・平安時代の粘土採掘跡と窯跡。古墳時代前期住居跡。

牛出古窯遺跡・・・奈良時代窯跡と工房跡。古墳時代前期集落跡。先土器時代ブロック。

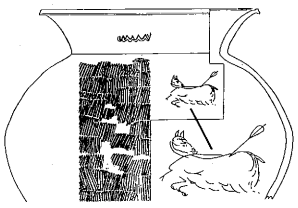
以上７遺跡であるが，弥生時代後期から古墳時代前期の資料と，奈良時代から平安時代前半の須恵器生産関連の資料が中心となる。

弥生時代後期から古墳時代前期では，がまん淵遺跡が，すでに報告されている七瀬遺跡の第１段階に，沢田鍋土遺跡が七瀬第３段階に，牛出古窯遺跡は七瀬第３段階に後続する時期に該当すると考えられる。第27図は各遺跡に見られる高坏を示したものである。

須恵器生産関連では，奈良時代10基，平安時代２基の窯跡の資料化を行った。中野市教育委員会の窯跡の集成資料（『安源寺遺跡』1995）と共に，長丘丘陵古窯跡群の資料が蓄積されてきている。現在長丘丘陵窯跡群における須恵器編年を検討中である。なお，清水山窯跡で「高井」と蓖書きされた皿が２点発見され，これと共に出土した126点の「井」印の蓖書きが高井郡を示している蓋然性が高くなった。同じく清水山窯跡で出土した「佐玖郡」と共に，奈良時代前半の須恵器生産を理解する上で重要な資料となる。また，矢を射られた動物が描かれた須



第27図　各遺跡の高坏



第28図　清水山窯跡出土須恵器
（1：8）

II　普及・公開活動の概要

1　現地説明会・展示会

(1)　長野調査事務所

ア　速報展'95

平成８年２月17日（土）～３月３日（日）の実質14日間，長野県立歴史館企画展示室を会場として，長野調査事務所の平成６～７年度発掘調査と，平成７年度の整理作業の概要速報を目的とした速報展を開催した。北陸新幹線関連遺跡の速報のほか，石川条里遺跡など整理作業がかなり進んだ遺跡の新たな知見を展示し，さらにエポキシ系樹脂を使用した土器復元の新技術や，木製品・金属製品の保存処理技術の紹介展示も併せて行った。

ほぼ毎年実施しているためかマスコミの注目度も高く，取材者が多かった。最も関心を集めたのは土器の復元で，作業の分かりやすさや身直に感じられる点が好評だったようだ。冬季は博物館来観者が最も減少する時期だが，速報展を主目的に来観した人も多く，期間中約2,500人の入場者を集めた。

(2)　中野調査事務所

ア　日向林Ｂ遺跡・貫ノ木遺跡現地説明会

平成７年５月28日（日），信濃町の日向林Ｂ遺跡と貫ノ木遺跡で合同の現地説明会を開催した。同時に日向林Ｂ遺跡の現場事務所で上信越自動車道関連の信濃町内の主要遺跡の出土品の展示会も行った。現地での説明は日向林Ｂ遺跡では午前と午後の２回，貫ノ木遺跡では１回実施した。曇り空の下150名の参加者があり盛況だった。石斧についての質問が多く，ナウマン象の脂肪酸検出により関心が高まったことが示された。

イ　発掘出土品展

平成７年11月26日（日），信濃町総合会館・教室において，今年度発掘調査した信濃町の上信越自動車道関連各遺跡（七ツ栗，日向林Ｂ，東裏，大久保南，上ノ原，貫ノ木，西岡Ａ，星光山荘）の出土品展を行った。大久保南遺跡の黒曜石の集中箇所の発見，星光山荘遺跡の大量の神子柴系石斧の出土など話題が相次いでいたこともあり，120名の参加者があった。

第29図　発掘出土品展

ウ　中野調査事務所閉所記念展示会

平成８年１月21日（日）に中野市中央公民館講堂において，中野調査事務所の５年間の活動をまとめる事務所閉所記念展示会を開催，併せて関所長による講演会も行われた。展示会は中野事務所管内24遺跡の旧石器時代～中世の代表的な出土品を展示した。関所長は中野市の高丘丘陵の縄文時

代の貯蔵穴と奈良時代の窯跡に焦点を当て，その成果と意義を講演した。地元で行われる最後の展示会に280名余の参加者は熱心に見学していた。

2　指導・研究会・学習会

期　日	講　師		指導内容ほか
7・4・11～12	国立歴史民俗博物館 東京大学文学部 奈良国立文化財研究所	平川南教授 佐藤信助教授 寺崎保広主任研究官	屋代遺跡群出土木簡について
7・5・19～22 7・8・26～27 7・10・29～31 8・1・20～22	国立歴史民俗博物館 東京大学史料編纂所 東京大学大学院	平川南教授 山口英男助手 鐘江宏之助手	屋代遺跡群出土木簡について
7・5・29～30	明治大学文学部	安蒜政雄教授	信濃町旧石器時代遺跡について
7・6・2	御代田町教育委員会	小山岳夫学芸員	松原遺跡の弥生土器について
7・6・11～12	沼津工業高等専門学校 沼津市埋文センター	望月明彦教授 池谷信之調査研究員	信濃町の旧石器時代遺跡調査法と黒曜石産地同定について
7・7・18～19 7・8・8～9 7・12・20～22 8・3・18～22	京都大学霊長類研究所	茂原信生教授	人骨・獣骨について
7・8・26～27	向日市教育委員会	清水みき主査	屋代遺跡群出土木簡について
7・9・18～19	諏訪中学校	小口徹教諭	松原遺跡の自然環境について
7・10・12～13 7・11・20～22	房総風土記の丘	穴沢義功研究員	製鉄・鍛冶関連遺物について
7・10・30～31	群馬町教育委員会	若狭徹学芸員	松原遺跡の弥生土器について
7・12・5	旧開智学校管理事務所	直井雅尚主事	大穴古墳出土土器について
7・12・11～12	大阪大学文学部	都出比呂志教授	石川条里遺跡の評価について
7・12・5～6	奈良国立文化財研究所	上原真人主任研究官	榎田遺跡の木器について
8・2・26～27	慶応大学文学部	岡本孝之助教授	松原遺跡の弥生土器について
8・3・5～6	東京都立大学	山田昌久助教授	屋代遺跡群の木屑について
8・3・28～29	立正大学大学院	松原典明氏	観音平経塚出土遺物について

3　刊行物

「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書７－大星山古墳群・北平１号墳」

「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書23－長野県屋代遺跡群出土木簡」

「長野県の考古学」－㈶長野県埋蔵文化財センター研究論集Ⅰ

「長野県埋蔵文化財センター年報12」

「長野県埋蔵文化財センター紀要４」

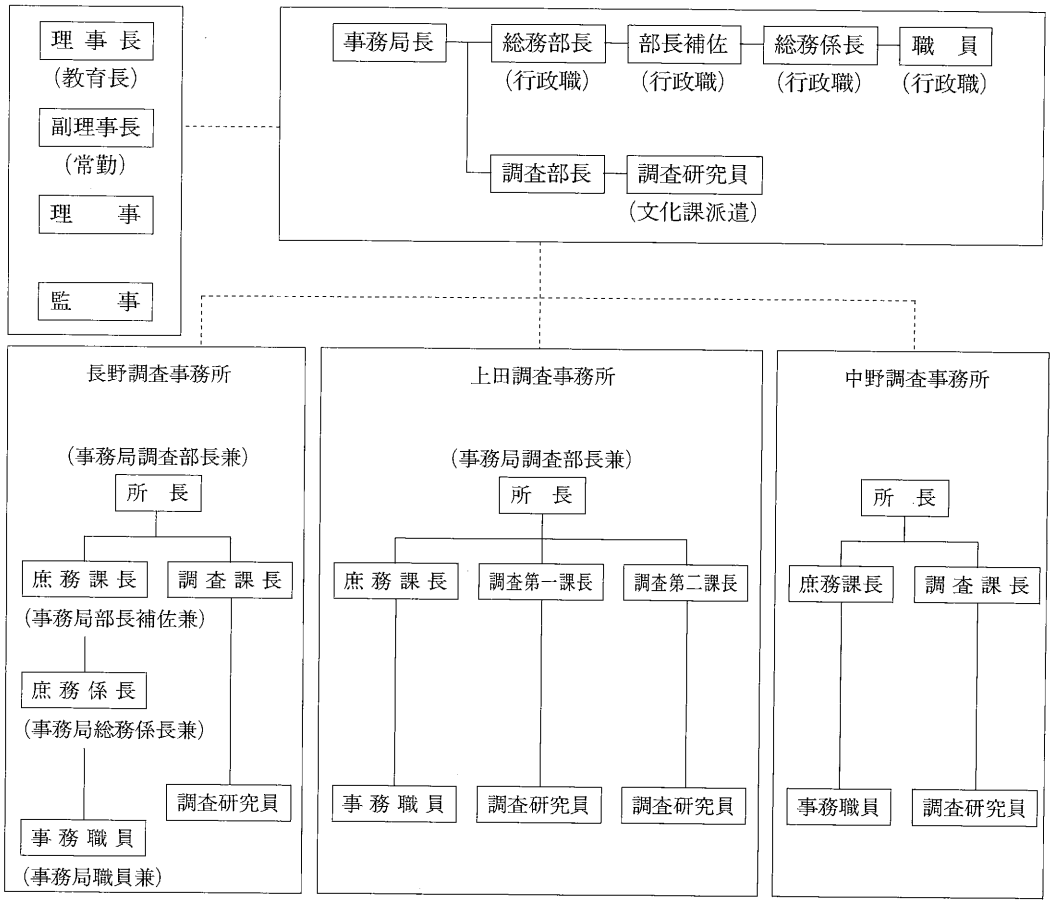
Ⅲ　機構・事業の概要

1　機構

(1)　組織

【理事会】	理事長(県教育長) 副理事長(常勤) 理事(県企画局長) 理事(県高速道局長)	理事(県北陸新幹線局長) 理事(県教委文化課長) 理事(県考古学会長) 理事(市町村長代表)	理事(市町村教育長代表) 理事(考古学研究者代表) 監事(県会計局会計課長) 監事(県教委総務課長)

㈶長野県埋蔵文化財センター組織図



(2)　事務局所在地

本部・事務局　　更埴市屋代清水260－6

長野調査事務所　更埴市屋代清水260－6

上田調査事務所　上田市下塩尻936－3

中野調査事務所　中野市立ヶ花西原55－1

2　事　業

(1)　理事会および会計監査

理事会

○第30回理事会　平成7年5月31日　会場　長野市　長野県職員センター

第1号議案　平成6年度事業報告について

第2号議案　平成6年度決算報告について

○第31回理事会　平成8年3月21日　会場　長野市　ホテル信濃路

第1号議案　平成8年度事業計画書（案）について

第2号議案　平成8年度収支予算書（案）について

第3号議案　平成7年度収支補正予算書（案）について

第4号議案　寄付行為の一部変更（案）について

第5号議案　監事の委嘱について

会計監査

平成7年5月26日実施　平成6年度事業報告書および収支決算書について

(2)　調査事業

長野自動車道および上信越自動車道にかかる埋蔵文化財発掘調査－長野県教育委員会からの委託。北陸新幹線にかかる埋蔵文化財の発掘調査－長野県教育委員会および長野市・上田市からの委託。国道野尻バイパスにかかる埋蔵文化財発掘調査－建設省関東地方建設局からの委託。国営アルプスあづみの公園にかかる埋蔵文化財発掘調査－建設省関東地方建設局からの委託。調査課職員の派遣。

ア　調査遺跡および調査面積（（　）内は側道）

○上信越自動車道関係　小諸市・東部町・上田市・坂城町・更埴市・中野市・豊田村・信濃町各地域内17遺跡，47,500㎡

○北陸新幹線関係　佐久市・上田市・長野市各地域内5遺跡，7,910㎡（2遺跡，910㎡）

○国道野尻バイパス関係　信濃町地域内1遺跡，3,400㎡

○国営アルプスあづみの公園関係　穂高町・大町市各地域内2遺跡，5,303㎡

イ　整理事業

○長野自動車道関係　長野市の2遺跡の整理事業

○上信越自動車道関係　佐久市・小諸市・東部町・上田市・坂城町・更埴市・長野市・小布施町・中野市・豊田村・信濃町内計64遺跡の整理事業

○北陸新幹線関係　御代田町・佐久市・浅科村・上田市・更埴市・長野市内計26遺跡の整理事業

ウ　職員派遣

○飯田市，兵庫県より要請を受け，埋蔵文化財発掘調査関係の事業のため，調査課職員を1名ずつ派遣

(3)　事業費

長野自動車道関係	144,564千円	上信越自動車道関係	1,198,713千円
北陸新幹線関係	257,556千円	国道バイパス関係	72,608千円
国営公園関係	9,385千円		

(4)　普及活動（36ページ参照）

(5) 職員研修

ア 講師招聘および来所による指導・講演会等（37ページ参照）

イ 奈良国立文化財研究所関係

期　日	日　数	課　程	参　加　者
平成7・5・9～5・18	8	遺跡探査課程	町　田　勝　則
7・11・7～11・17	9	保存科学基礎課程	寺　内　貴　美　子
8・1・10～1・25	16	寺院官衙遺跡調査課程	寺　内　隆　夫
8・1・31～2・7	8	保存科学応用課程	水　沢　教　子
8・2・14～3・8	14	遺跡保存整備課程	谷　　和　隆

ウ 海外研修

期　日	内　　容	参加者
平成7・12・8～12.17	我が国の古代文化の源流となった中国の古代文化遺跡の研究 ①遺跡・博物館等の見学 　周口店遺跡・半坡遺跡・大河村遺跡博物館・車馬坑博物館・鄭州市商代城壁発掘現場陳列館・兵馬俑博物館・陝西省歴史博物館・洛陽市博物館他 ②研究機関等との交流 　中国歴史博物院・鄭州市文物考古研究所他	広瀬昭弘 青木一男 鶴田典昭

エ その他の学会関係研究会・研修会

期　日	発表者	内　　容
7・11・16	谷　和隆	「野尻湖遺跡群の石器石材」 　平成7年度関東甲信越静埋蔵文化財担当職員共同研修会
7・12・2～3	寺内隆夫・水沢教子 宮島義和	「長野県屋代遺跡群と出土木簡」 　第17回木簡学会研究集会
8・2・1	上田典男	「中世墓の調査」 　平成7年度市町村埋蔵文化財担当者発掘技術研修会
期　間	**参加者**	**内　　容**
7・7・7～8	田村彬	第7回埋蔵文化財写真技術研究会
7・12・2～3	上田真・若林卓他	シンポジウム「製鉄と鍛冶」
8・3・2～3	贄田明・宮島義和他	第39回埋蔵文化財研究集会「古代の木製食器」
そのほか，各種学会・研究会・シンポジウムなどへの参加多数		

オ 県外博物館・埋文センター・遺跡等視察および資料調査

期　日	視　察　・　調　査　他	参加者
8．2．17～18	群馬県立博物館，さきたま資料館他	田中正治郎
そのほか，各地の博物館・研究機関などの視察・調査など多数		

カ　全埋文協などへの参加

期　日	会　議　名	開催地	参　加　者
7・ 4・20	全埋文協中部・北陸ブロック会議	富 山 市	田村治夫・西尾紀雄 小林秀夫
7・ 5・15～16	全埋文協役員会	大 阪 市	田村治夫・西尾紀雄 小林秀夫
7・ 6・ 8～ 9	全埋文協総会	名古屋市	田村治夫・小林秀夫 下平正彦
7・ 8・10～11	全埋文協研究会	高 知 市	関　孝一・篠原教雄 石坂　裕
7・ 9・13～14	関越自動車道関係等四県連絡会議	信 濃 町	小林秀夫・関　孝一 百瀬長秀・土屋　積 広瀬昭弘
7・10・ 5～ 6	全埋文協中部・北陸ブロックＯＡ委員会	岐 阜 市	広瀬昭弘・上田典男
7・10・26～27	全埋文協中部・北陸ブロック会議	名古屋市	田村治夫・西尾紀雄 外谷　功・村山茂美 臼田武正・土屋　積
7・11・16～17	全埋文協役員会	東 京 都	田村治夫・西尾紀雄 礒野道子
7・11・16～17	関東甲信越静埋文行政担当者共同研修会	戸 倉 町	土屋積・谷和隆ほか
7・11・30～12・1	関東甲信越静埋文行政担当者会議	甲 府 市	山口栄一・百瀬長秀

キ　長野県教育センター・産業教育センター研修

期　日	分　野		講　座　名	参　加　者
教育センター				
7・ 6・14～15	一般	教育相談	不登校と教育相談	竹内聖彦
7・ 9・ 5～ 6	一般	理　科	大地の生い立ちを探る	若林　卓
7・ 9・21～22	一般	特活・進路	問題をもつ生徒の援助と中学校学級経営	山岡一英
7・ 9・22	企画	教職教養	異文化に学ぶ国際化時代	竹内聖彦
7・ 9・26	企画	音　楽	合唱指導法	豊田義幸・井口　章
7・ 9・28	企画	教職教養	一般教職教養　自然の神秘を探る	沢谷昌英
7・10・ 3	企画	教職教養	長野県教育の歴史に学ぶ	町田勝則
7・11・10	企画	教職教養	哲学への道	田村　彬
7・11・16	企画	教職教養	子供の本の世界	相沢秀樹
7・11・29～30	一般	教職機器	ビデオ活用	相沢秀樹
7・12・ 5	企画	教職教養	自己を見つめて	山岡一英・依田　茂
7・ 8・ 2～ 4			平成７年度カウンセリング等生徒指導研修	山岡一英
産業教育センター				
7・ 5・29	情報処理		ＭＳ－ＤＯＳ入門（１）	小田切清一
7・ 7・24	情報処理		ＭＳ－ＤＯＳ応用（１）	藤原直人
7・7・31～ 8・ 1	情報処理		パソコン入門（３）	町田勝則
7・ 6・19～21	情報処理		Ｃ言語入門	藤森俊彦
7・ 7・12～14	情報処理		Ｃ言語入門	藤森俊彦

ク　姉妹校研修

調査事務所名	期　日	訪問学校名	研修内容	参加者
中野事務所	8・1・16	中野西高校	授業参観・懇談	石原州一・奥山宗春・竹内聖彦・酒井健次・小田切清一・久保田秀一郎・鈴木孝則・三木雅博
上田事務所	8・3・12	塩尻小学校	〃	鳥羽英継・相沢秀樹井口章・豊田義幸

ケ　県内市町村および関係機関への協力・指導等

期　日	市町村等	協　力　・　指　導　内　容　等
7・12・13	小布施町	飯田古屋敷遺跡の発掘調査について
7・5・2	中　条　村	宮遺跡公園整備事業計画について（4回）
7・12・13	小　諸　市	愛宕山城跡の発掘調査について
その他　4市町村に対して協力した。		

コ　平成7年度市町村埋蔵文化財担当者発掘技術研修会

－長野県教育委員会・長野県立歴史館と共催

1　日時　平成8年2月1日（木）　10時～15時30分
2　会場　長野県立歴史館講堂
3　内容　事例報告1「中世墓の調査」　㈶長野県埋蔵文化財センター　上田典男
事例報告2「中世集落の調査について～松本市一ツ家遺跡の調査から～」
松本市教育委員会　竹内靖長
事例報告3「中世館の調査～大町市常盤須沼氏居館跡の調査から」
大町市教育委員会　島田哲男
講演　「中世遺跡調査に求めるもの～文献史学からの視点」
信州大学人文学部教授　笹本正治
4　参加者　155名

サ　資料貸し出し

期　間	貸し出し資料	貸出先・目的
7・4・18～7・6・19	石川条里遺跡出土装飾品	県立安土城考古博物館「特別展－祭りと政」
7・6・6～8・2・29	日向林B遺跡出土石斧・砥石42点	文化庁「新発見考古速報展」
7・7・22～7・9・3	池田端窯跡・清水山窯跡出土品	上田市立国分寺資料館「東国の国分寺」
7・9・11～7・11・24	松原遺跡出土石製装飾品	福岡市立博物館「縄文時代展」

シ　同和研修

期　間	講　　師	内　　容
7・6・30	清水照雄（中野市教育委員会生涯学習課）	「人の気持ちが分かるための同和教育」

平成７年度役員及び職員

理　事　会

理　事　長	佐藤善處
副理事長	田村治夫
理　　事	花岡　勝明（県企画局長） 佐々木　勇（県高速道局長） 加藤　勝彦（県北陸新幹線局長） 木船　智二（県教委文化課長） 宮坂　博敏（更埴市長） 森嶋　　稔（県考古学会長） 滝沢　忠男（長野市教育長） 神村　　透（考古学研究者）
監　　事	江村宏二郎（県会計局会計課長） 芹沢　　勤（県教委総務課長）

事　務　局

事務局長	峯村　忠司		
総務部長	西尾　紀雄	調査部長	小林　秀夫
総務部長補佐	外谷　　功		
総務係長	礒野　道子		
職　　員	堀川　正子（主査）　篠原　教雄（主査）　下平　正彦（主事）		
派遣職員	岡村　秀雄（文化課）　川崎　　保（兵庫県）		

調査事務所

	長野調査事務所	上田調査事務所	中野調査事務所
所　　長	小林　秀夫（兼）	小林　秀夫（兼）	関　　孝一
庶務課長	外谷　　功（兼）	山口　栄一	村山　茂美
庶務係長	礒野　道子（兼）		
事務職員	主査　堀川　正子(兼)　主査　篠原　教雄(兼) 主事　下平　正彦(兼)　原田　和男	主事　石坂　　裕	主査　堀　正治
調査課長	百瀬　長秀	臼田　武正　広瀬　昭弘	土屋　　積
調査研究員	青木　一男　市川　桂子　市川　隆之 上田　典男　臼居　直之　上沼　由彦 澤谷　昌英　田中正治郎　寺内貴美子 徳永　哲秀　贄田　　明　西嶋　　力 西山　克己　広田　和穂　藤森　俊彦 増村　香子　町田　勝則　両角　英敏 山本　　浩　和田　　進	相澤　秀樹　井口　　章 伊藤　友久　上田　　真 宇賀神誠司　河西　克造 川崎　　保　桜井　秀雄 田村　　彬　寺内　隆夫 寺沢　政俊　鳥羽　英継 豊田　義幸　平出潤一郎 藤原　直人　水沢　教子 宮島　義和　柳沢　秀一 柳沢　　亮　山岡　一英 依田　　茂　若林　　卓	石原　州一 臼田　広之 大竹　憲昭 奥山　宗春 小田切清一 神林　忠克 片山　　徹 久保田修一郎 酒井　健次 代田　　孝 鈴木　孝則 竹内　聖彦 谷　　和隆 鶴田　典昭 前田　利彦 柳沢　佑三
調査員	西島　洋子　山崎まゆみ		中島　英子 三木　雅博

長野県埋蔵文化財センター年報12　1995

発 行 日　平成８年３月31日
編集発行　㈶長野県埋蔵文化財センター
〒387　更埴市屋代清水260－６
TEL　026－274－3891
印　　刷　信毎書籍印刷株式会社
〒381　長野市西和田470
TEL　026－243－2105